

調査結果の概要

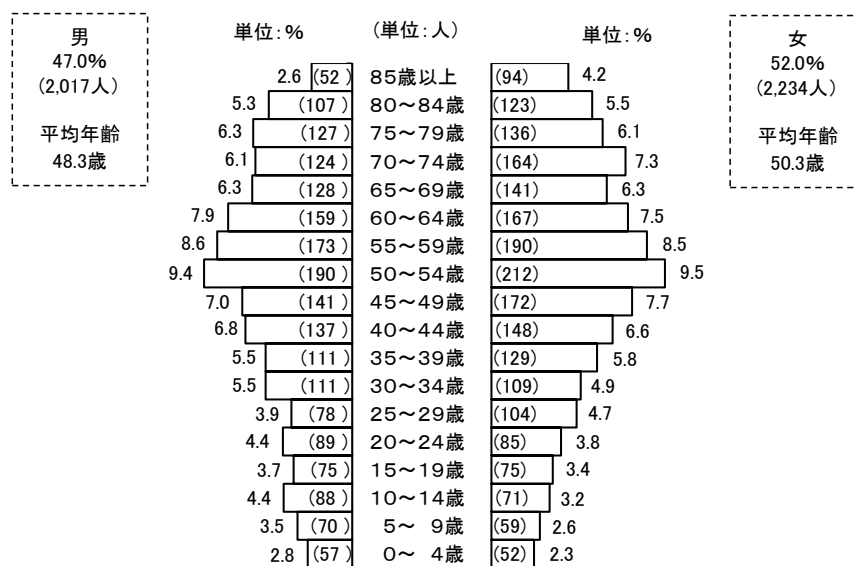
第1部 世帯と世帯員の状況

(調査票①の結果 集計対象 2,143 世帯、4,293 人の状況)

第1章 集計対象者の性・年齢階級

集計対象者 4,293 人の世帯員の性別をみると、男性 47.0%、女性 52.0%、平均年齢は男性 48.3 歳、女性は 50.3 歳となっている。(図 I-1-1)【報告書本文 17p】

図 I-1-1 集計対象者の性・年齢階級



(注1) 男性 47.0%、女性 52.0%で合計が 100%にならないのは、性別「その他」を回答した人が 28 人、性別無回答の人が 14 人いるため。

(注2) 女性 2,234 人は年齢無回答の人を含むため、内訳の合計と一致しない。

《参考》住民基本台帳による東京都の世帯と人口 (令和6年1月1日) (総務局)



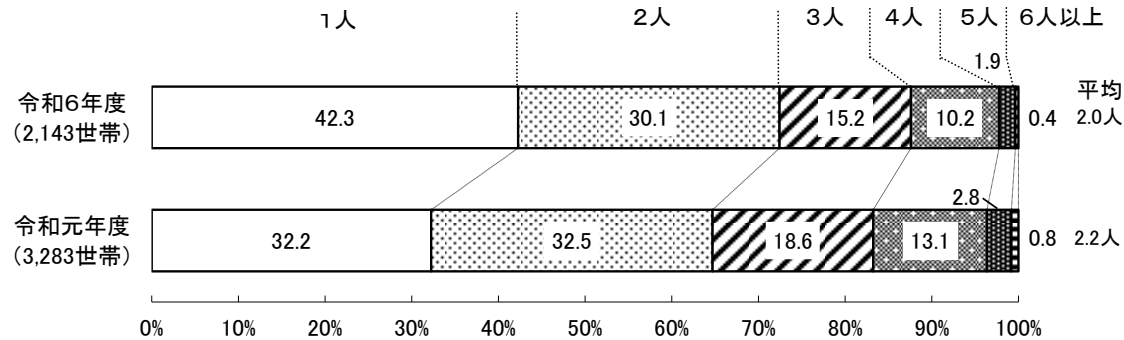
(注) 図・表の番号は、本文中の番号である。

第2章 世帯と世帯員の状況

1 世帯人員

世帯人員は、「1人」の割合が42.3%、「2人」が30.1%となっている。
また、平均世帯人員は2.0人となっている。（図I-2-1）【本文19p】

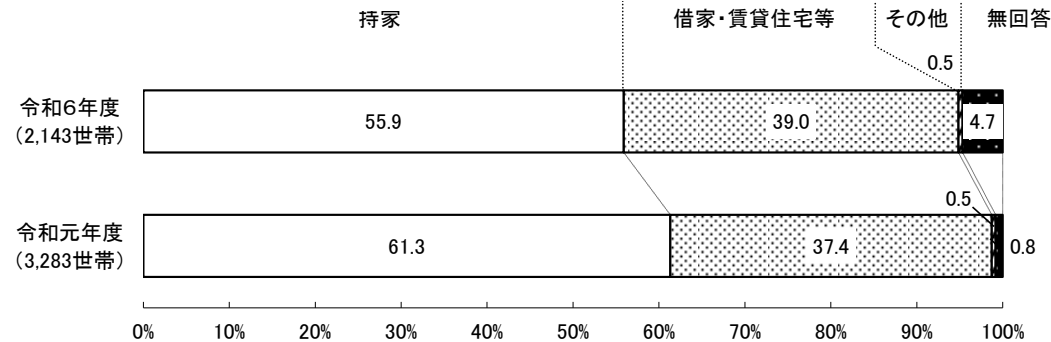
図I-2-1 世帯人員



2 住居の状況

住居の種類は、「持家」の割合が55.9%、「借家・賃貸住宅等」が39.0%となっている。
（図I-2-5）【本文21p】

図I-2-5 住居の種類



3 世帯員の就業の状況

就業の状況を性別でみると、「就業者」の割合は、男性62.5%、女性52.9%となっている。
（表I-3-2）【本文34p】

表I-3-2 就業状況一性・年齢階級別

		総 数	労 働 力 人 口						非 労 働 力 人 口					無 回 答
				就 業 者	主 に 仕 事 を し て い る	主 に 家 事 で 仕 事 も し て い る ※ 1	主 に 学 業 で 仕 事 も し て い る ※ 2	そ の 他		仕 事 を 探 し て い た	家 事 ・ 育 児 ・ 介 護 ※ 3	高 学 業 の み （ 小 ・ 中 ・ 高 ・ 大 学 な ど ） ※ 4	働 い て い な い （ 幼 児 ・ 病 気 等 ）	
総数		100.0 (4,293)	57.8	57.0	44.3	8.2	3.0	1.4	0.7	36.7	5.8	11.3	19.6	5.5
	男	100.0 (2,017)	63.2	62.5	56.3	1.3	3.3	1.5	0.7	32.3	0.5	12.2	19.5	4.6
	女	100.0 (2,234)	53.7	52.9	34.2	14.5	2.8	1.4	0.8	40.2	10.7	9.8	19.7	6.1
令和元年度		100.0 (7,369)	56.4	55.8	46.1	7.6	1.3	0.8	0.7	42.1	9.0	10.9	22.2	1.5

（注1） ※1は、令和元年度調査では「家事などのかたわらに仕事」としていた。
（注2） ※2は、令和元年度調査では「通学のかたわらに仕事」としていた。
（注3） ※3は、令和元年度調査では「家事専業」としていた。
（注4） ※4は、令和元年度調査では「通学のみ」としていた。

4 世帯収入の状況

(1) 主な世帯収入の種類

主な世帯収入の種類は、「賃金・給料」の割合が 53.9%と最も高く、次いで「年金・恩給」が 21.6%となっている。(表 I-2-3)【本文 24p】

表 I-2-3 主な世帯収入の種類

(単位: %)										
	総 数	賃 金 ・ 給 料	事 業 所 得	家 賃 ・ 地 代 ・ 利 子 ・ 配 当	仕 送 り	年 金 ・ 恩 給	生 活 保 護	雇 用 保 険 ・ 保 障 給 付 金 ・ そ の 他 の 社 会 的 収 入	そ の 他 の 収 入	無 回 答
令和6年度	100.0 (2,143世帯)	53.9	4.7	1.6	0.7	21.6	1.1	0.2	1.2	14.9
令和元年度	100.0 (3,283世帯)	59.2	5.8	2.7	0.8	25.6	3.1	0.2	0.6	2.0

(2) 世帯の年間収入

世帯の年間収入(令和5年分)は、「300～400万円未満」の割合が 12.9%と最も高く、次いで「200～300万円未満」が 11.9%となっている。(表 I-2-4)【本文 24p】

表 I-2-4 世帯の年間収入

	総 数	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	3 0 0 万 円 未 満	4 0 0 万 円 未 満	5 0 0 万 円 未 満	6 0 0 万 円 未 満	7 0 0 万 円 未 満	8 0 0 万 円 未 満	9 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	無 回 答
令和6年度	100.0 (2,143世帯)	6.2	9.1	11.9	12.9	10.3	7.7	4.7	4.8	4.3	4.1	4.2	2.9	1.9	1.7	1.1	3.4	2.8	6.1	
令和元年度	(3,283世帯)	4.6	10.8	12.1	12.1	7.9	8.0	6.6	6.4	5.3	4.4	4.1	2.6	1.8	1.5	1.3	2.8	1.7	6.0	

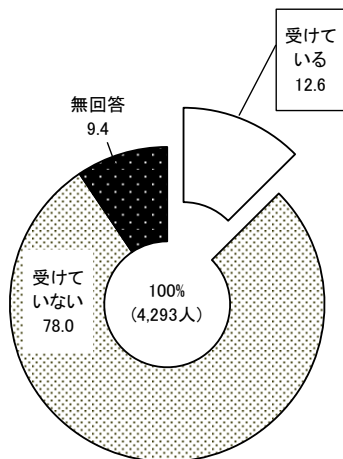
第3章 世帯における医療機関の受診状況

1 医療費助成の状況[複数回答]

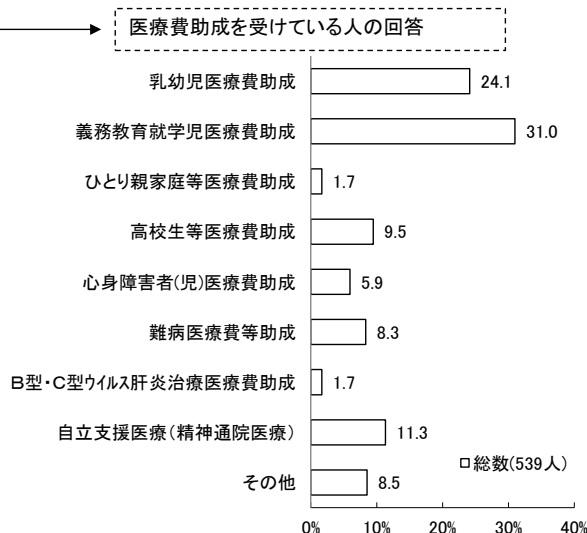
この1年間に医療費助成を受けたか聞いたところ、「受けている」人が12.6%、「受けていない」人が78.0%となっている。(図I-4-1)

また、受けている人(539人)に、助成の種類を聞いたところ、「義務教育就学児医療費助成」の割合が31.0%「乳幼児医療費助成」が24.1%となっている。(図I-4-2)【本文37p】

図I-4-1 医療費助成の有無



図I-4-2 医療費助成の種類[複数回答]

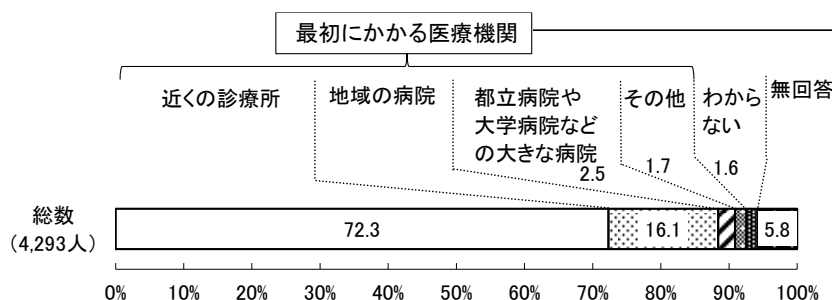


2 最初にかかる医療機関の種類とかかりつけ医の有無

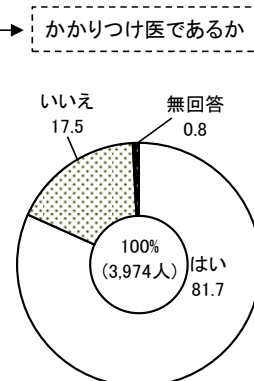
体の不調を感じた場合、まず最初にどの医療機関にかかるか聞いたところ、「近くの診療所」の割合が72.3%と最も高く、次いで「地域の病院」が16.1%、「都立病院や大学病院などの大きな病院」が2.5%となっている。(図I-4-5)

また、「わからない」と回答した人及び「無回答」を除く3,974人に、その医療機関がかかりつけ医であるか聞いたところ、「はい」の割合が81.7%となっている。(図I-4-6)【本文43p】

図I-4-5 最初にかかる医療機関の種類



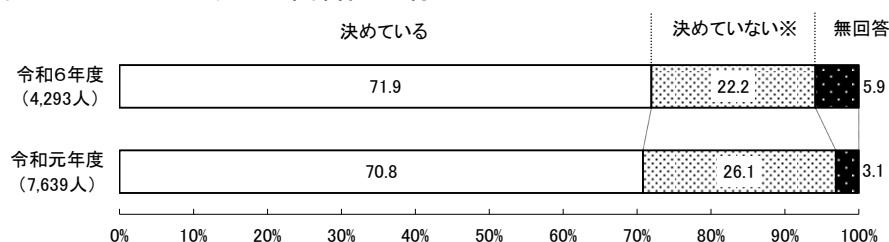
図I-4-6 かかりつけ医の有無



3 かかりつけ歯科医の有無

かかりつけ歯科医を決めているか聞いたところ、「決めている」割合が71.9%、「決めていない」が22.2%となっている。(図I-4-8)【本文46p】

図I-4-8 かかりつけ歯科医の有無



(注) ※は、令和元年度では「特に決めていない」としていた。

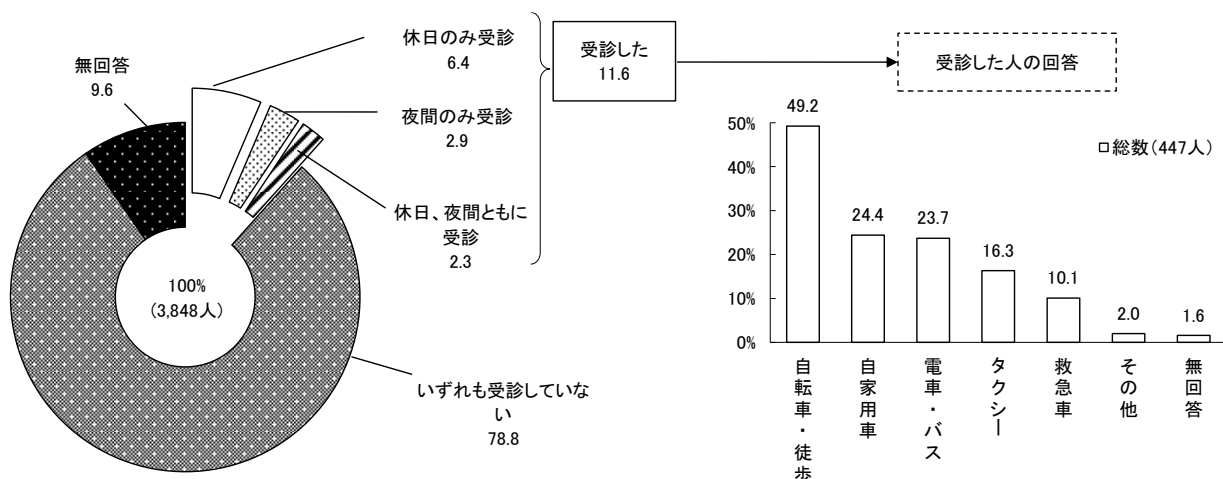
4 休日・夜間の医療機関の受診の有無と受診の際の交通手段[複数回答]

過去1年間に医療機関を受診した人(3,848人)に、休日・夜間に医療機関を受診したことがあるか聞いたところ、「休日のみ受診」の割合が6.4%、「夜間のみ受診」が2.9%、「休日、夜間ともに受診」が2.3%となっており、これらを合わせた割合は11.6%となっている。(図I-4-10)

また、受診した人(447人)に、受診の際の交通手段を聞いたところ、「自転車・徒歩」の割合が49.2%、「自家用車」が24.4%となっている。(図I-4-11)【本文51p】

図I-4-10 休日・夜間の医療機関の受診の有無

図I-4-11 受診の際の交通手段[複数回答]

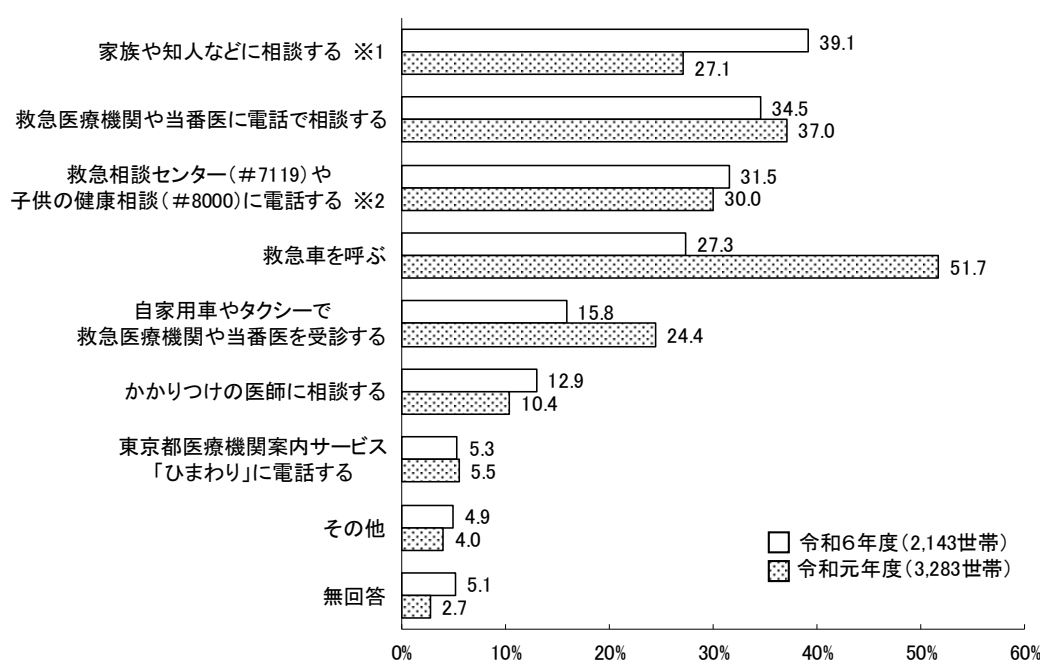


5 緊急時の対応[複数回答]

夜間や休日に自分や家族が急に具合が悪くなったり、ケガをして、どうしていいのか判断に迷った時どうするか、世帯における対応方法を聞いたところ、「家族や知人などに相談する」の割合が39.1%で最も高く、次いで「救急医療機関や当番医に電話で相談する」が34.5%、「救急相談センター(＃7119)や子供の健康相談(＃8000)に電話する」が31.5%となっている。

「救急車を呼ぶ」の割合は27.3%で、令和元年度調査(51.7%)と比べて24.4ポイント減少している。(図I-4-13)【本文52p】

図I-4-13 緊急時の対応[複数回答]



(注1) ※1は、令和元年度調査では「家族や応援してくれる知人などに相談する」としていた。

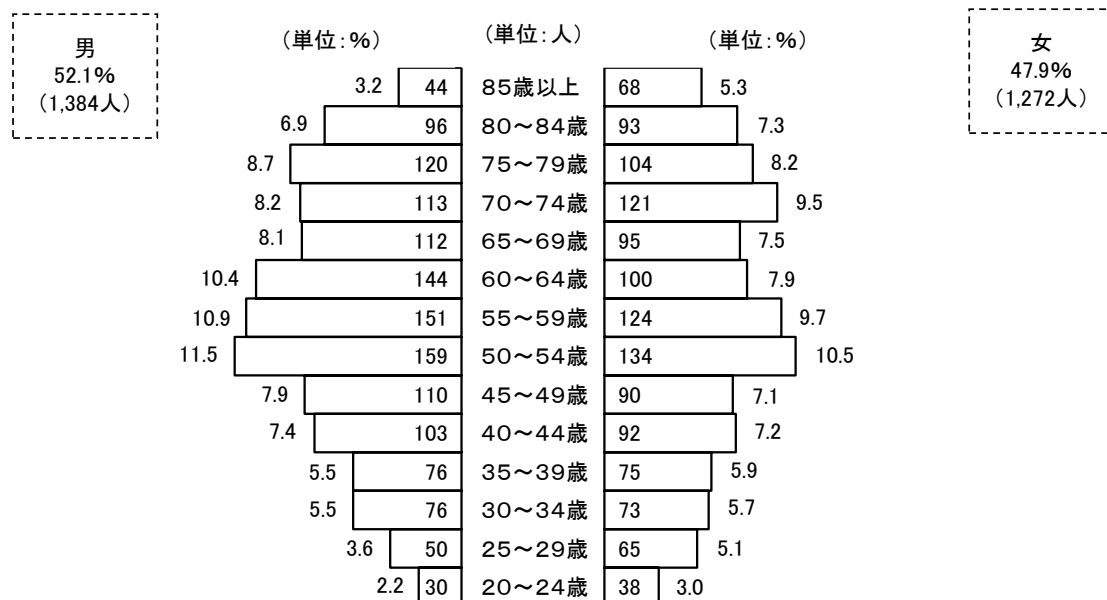
(注2) ※2は、令和元年度調査では「救急相談センター(＃7119)に電話する」としていた。

第2部 健康と医療に関する実態と意識

(調査票②の結果 集計対象 2,143 世帯の満 20 歳以上の世帯員 3,711 人のうち、回答を得られた 2,658 人の状況)

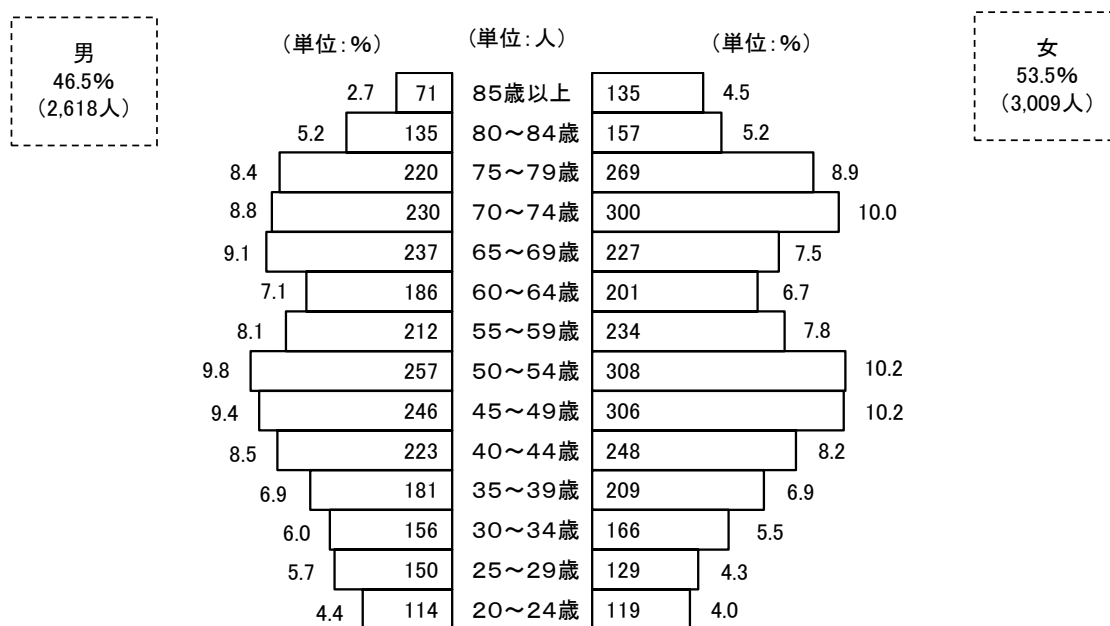
回答者の性・年齢階級の内訳については、次のとおりである。(図Ⅱ-1-1)【本文 55p】

図Ⅱ-1-1 回答者の性・年齢階級



(注) 男性 1,384 人、女性 1,272 人の合計が 2,658 人にならないのは、性別「その他」を回答した人が 2 人いるため。

《参考》令和元年度調査 (集計対象 3,283 世帯、5,627 人回答)

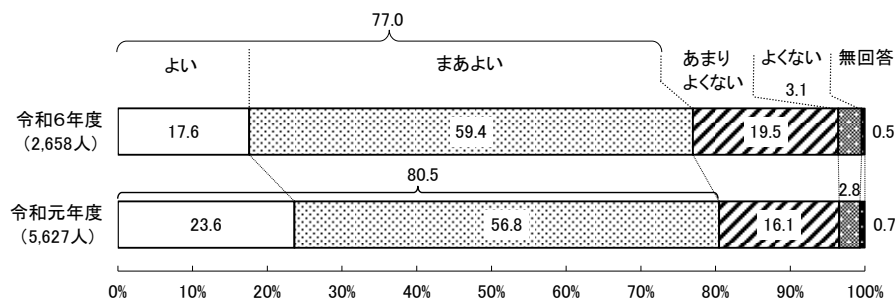


第1章 健康づくりの状況

1 健康状態の評価

20歳以上の世帯員（2,658人）に、自分の健康状態についてどのように感じているか聞いたところ、「まあよい」の割合が59.4%と最も高く、次いで「あまりよくない」の割合が19.5%となっている。「よい」と「まあよい」を合わせた割合は、77.0%となっている。（図Ⅱ-1-2）【本文 57p】

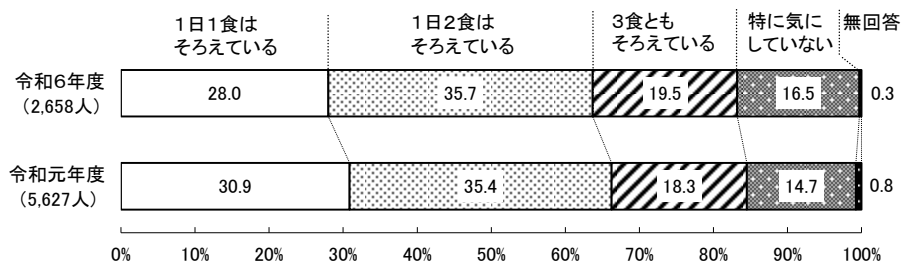
図Ⅱ-1-2 健康状態の評価



2 1日の食事の栄養バランス

20歳以上の世帯員（2,658人）に、普段の1日の食事（3食）のうち、何回、主食（ご飯、パン、麺類など）、主菜（肉、魚、卵、豆腐などの豆製品を使ったおかず）、副菜（野菜を使ったおかず）をそろえた食事をしているか聞いたところ、「1日2食はそろえている」割合が35.7%となっており、「3食ともそろえている」は19.5%となっている。（図Ⅱ-1-4）【本文 60p】

図Ⅱ-1-4 1日の食事の栄養バランス

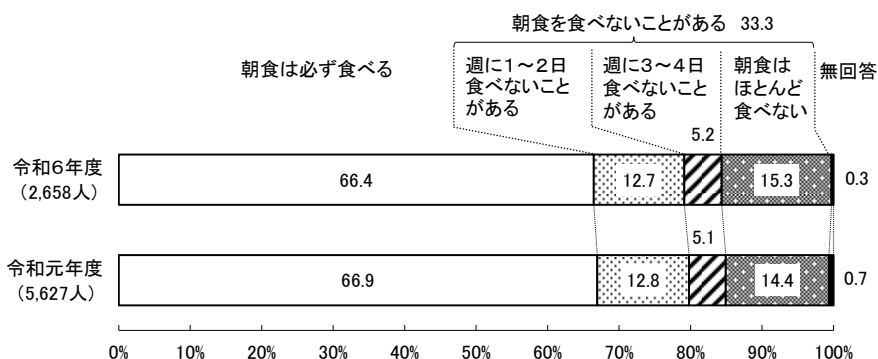


3 朝食の有無

20歳以上の世帯員（2,658人）に、普段朝食を食べない（欠食する）ことがあるか聞いたところ、「朝食は必ず食べる」の割合が66.4%となっている。

一方で、「朝食はほとんど食べない」（15.3%）、「週に3～4日食べないことがある」（5.2%）、「週に1～2日食べないことがある」（12.7%）を合わせた「朝食を食べないことがある」の割合は33.3%となっている。（図Ⅱ-1-6）【本文 64p】

図Ⅱ-1-6 朝食の有無

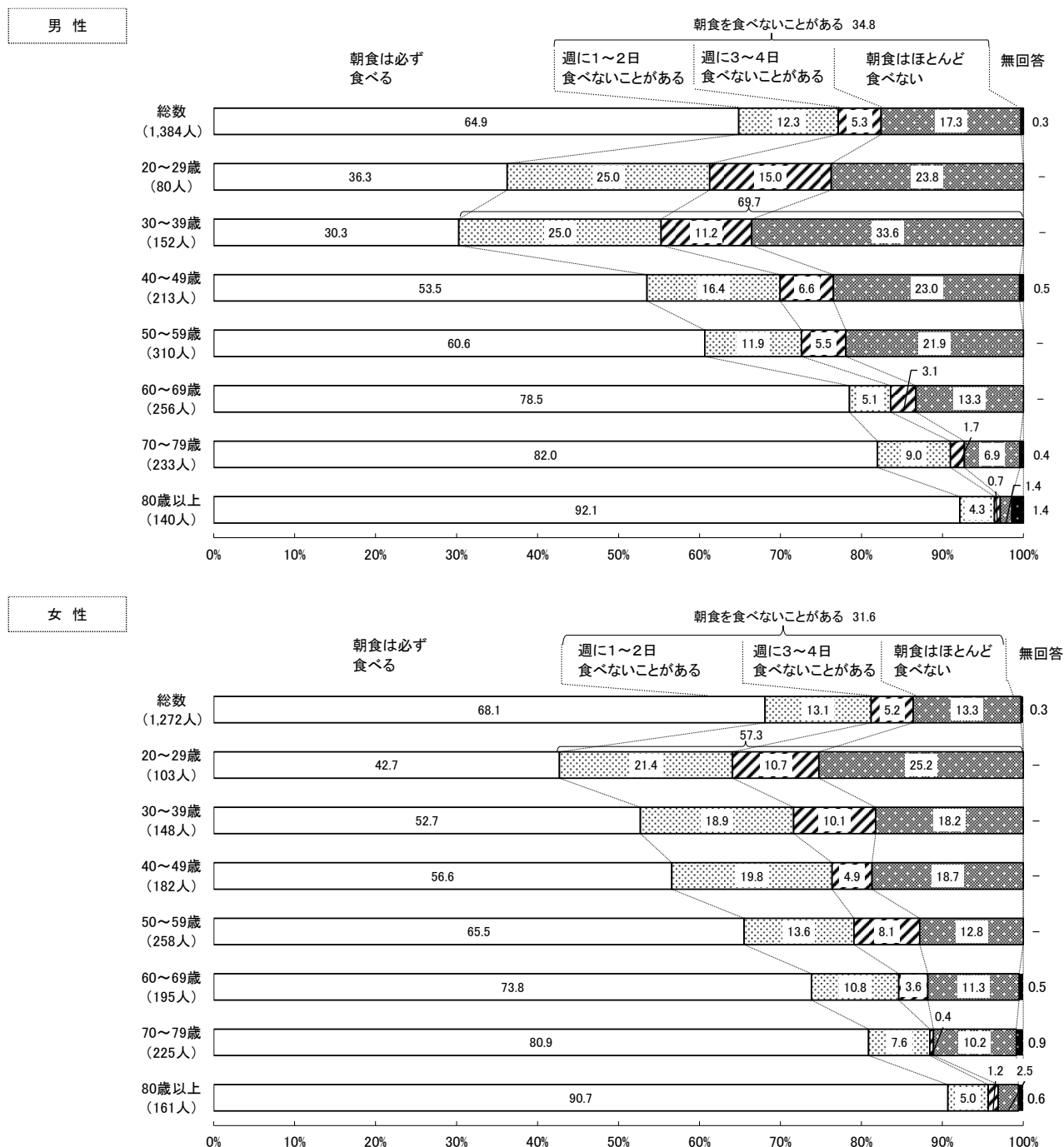


（注）「菓子、果物、乳製品、嗜好飲料などの食品のみを食べた場合」「錠剤などのサプリメント、栄養ドリンク剤のみの場合」は欠食としている。

(1) 朝食の有無一性・年齢階級別

朝食の有無を性・年齢階級別でみると、「朝食を食べないことがある」割合は、30代男性では69.7%、20代女性では57.3%となっている。一方で、「朝食は必ず食べる」割合は、男女とも60代以上では7割を超えている（73.8%～92.1%）。(図Ⅱ-1-7)【本文 65p】

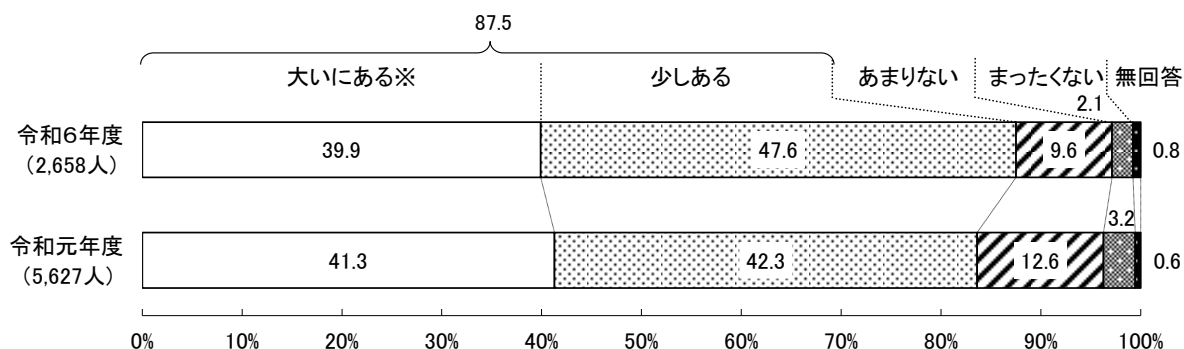
図Ⅱ-1-7 朝食の有無一性・年齢階級別



4 食生活・生活習慣の改善意欲

20歳以上の世帯員（2,658人）に、自分の健康のために、食生活の改善や運動量の増加などの生活習慣をより良い方向にすることに関心があるか聞いたところ、「大いにある」の割合が39.9%、「少しある」が47.6%となっており、これらを合わせた割合は87.5%となっている。（図Ⅱ-1-8）【本文67p】

図Ⅱ-1-8 食生活・生活習慣の改善意欲

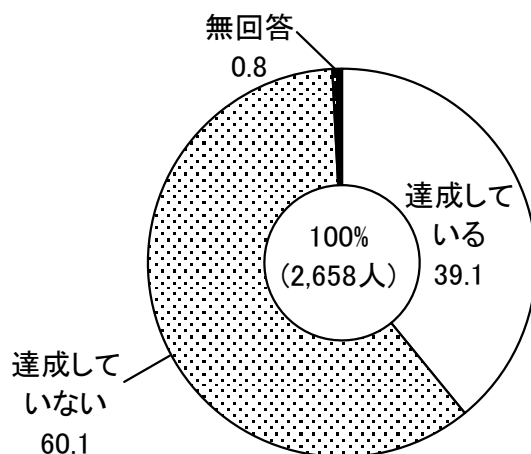


（注）※は、令和元年度調査では「十分にある」としていた。

5 日常生活における歩数

20歳以上の世帯員（2,658人）に、日常生活における歩数の増加のための目標値（※）を達成しているか聞いたところ、「達成している」の割合が39.1%、「達成していない」が60.1%となっている。（図Ⅱ-1-10）【本文70p】

図Ⅱ-1-10 日常生活における歩数



（注1）令和元年度調査では、生活活動（日常生活で身体を動かすこと）の実行度を聞く設問としていた。

（注2）各目標値の達成については、調査票に「歩数が不明な場合は、以下【目標値】の（参考）から、目標を達成しているかご確認ください。」と記載し、回答してもらった。

※目標値

20～64歳 : 男性 8,000 歩、女性 8,000 歩

65歳以上 : 男性 6,000 歩、女性 6,000 歩

（参考）10 分の歩行で約 1,000 歩に相当します。

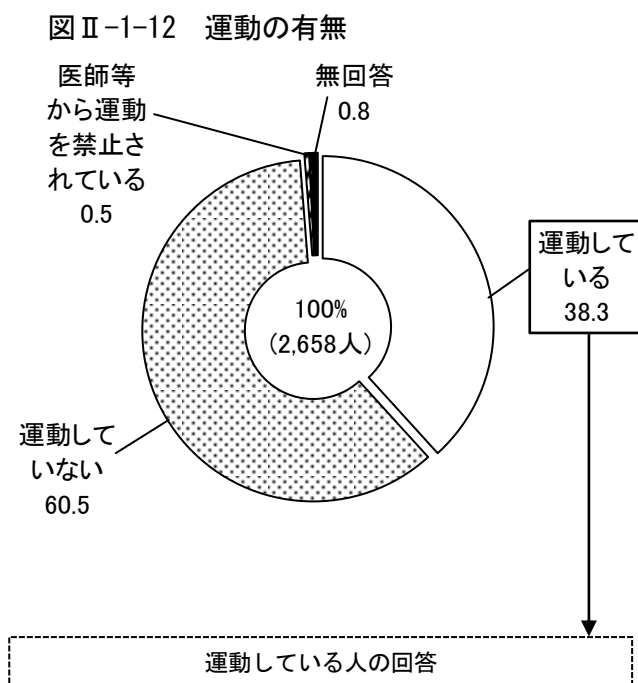
なお、「日常生活における歩数」は、主として、労働場面（荷物の運搬等）・家庭場面（掃除をするなど）・移動場面（階段を上るなど）における歩数の総数を指します。

（出典：「健康日本21（第三次）」厚生労働省）

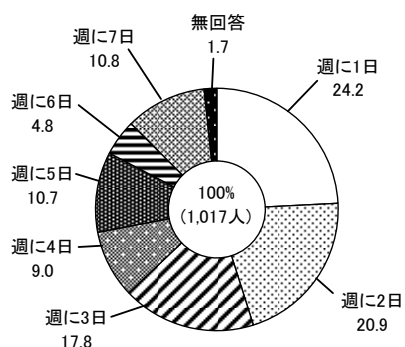
6 運動の有無と運動日数、平均運動時間、継続年数

20歳以上の世帯員（2,658人）に、運動（※）をしているか聞いたところ、「運動している」の割合が38.3%、「運動していない」が60.5%となっている。（図Ⅱ-1-12）

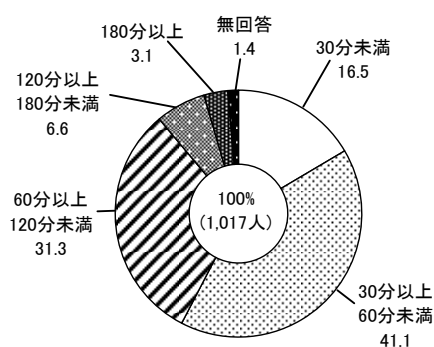
また、「運動している」と回答した人（1,017人）は、1週間の運動日数が「週に1日」の割合が24.2%、平均運動時間が「30分以上60分未満」の割合が41.1%、継続年数が「1年以上」の割合が79.5%とそれぞれ最も高くなっている。（図Ⅱ-1-13、図Ⅱ-1-14、図Ⅱ-1-15）【本文72p】



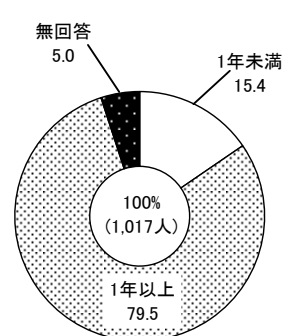
図Ⅱ-1-13 1週間の運動日数



図Ⅱ-1-14 運動を行う日の平均運動時間



図Ⅱ-1-15 運動の継続年数



※運動

スポーツやフィットネスなどの健康・体力の維持・増進を目的として、計画的・定期的に行うもの

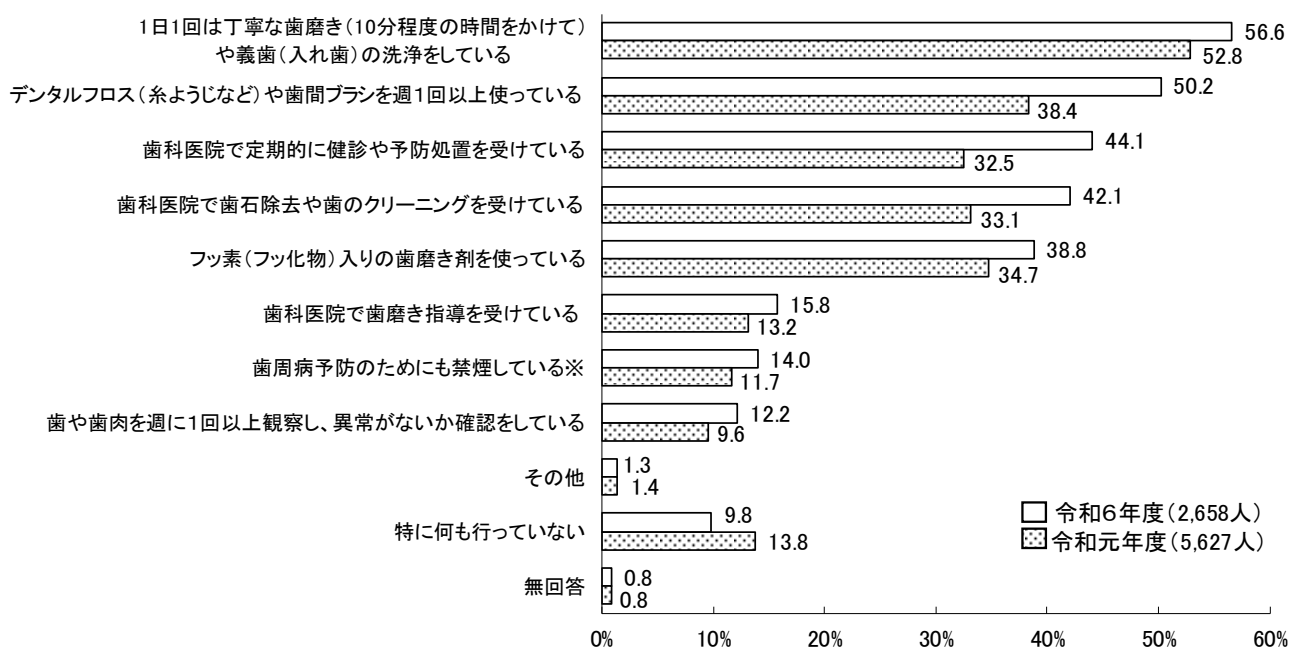
（出典：「健康日本21（第三次）」厚生労働省）

（注）令和元年度調査では、運動の推奨内容の実行度を聞く設問としていた。

7 歯の健康づくりの状況[複数回答]

20歳以上の世帯員(2,658人)に、歯や歯肉の健康を保つために行っていることはあるか聞いたところ、「1日1回は丁寧な歯磨き(10分程度の時間をかけて)や義歯(入れ歯)の洗浄をしている」の割合が56.6%で最も高く、次いで「デンタルフロス(糸ようじなど)や歯間ブラシを週1回以上使っている」が50.2%となっている。(図Ⅱ-1-20)【本文77p】

図Ⅱ-1-20 歯の健康づくりの状況[複数回答]



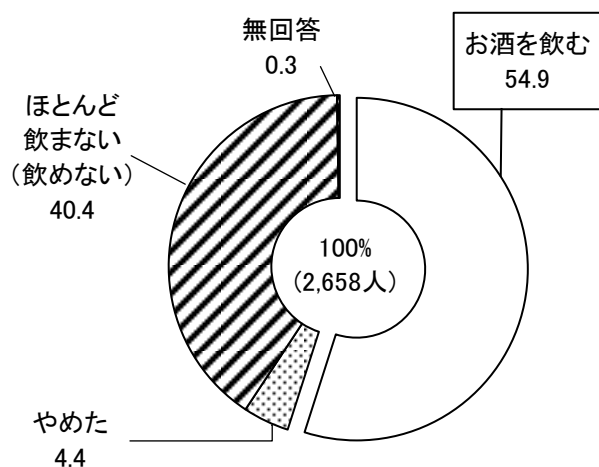
(注) ※は、令和元年度調査では「歯周病予防のためにも喫煙しないようにしている」としていた。

8 飲酒の有無、頻度

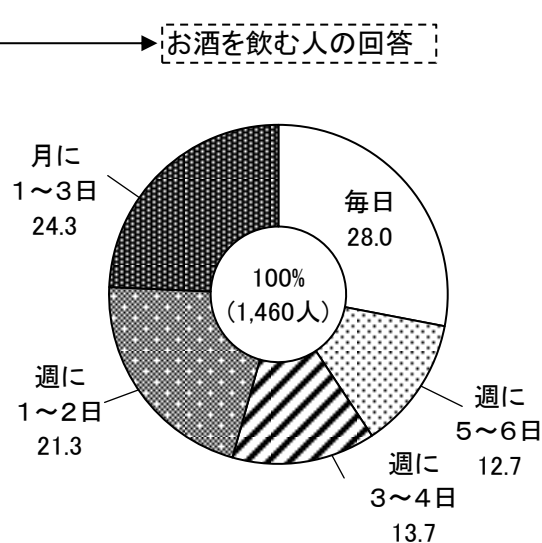
20歳以上の世帯員(2,658人)に、飲酒の有無について聞いたところ、「お酒を飲む」割合が54.9%、「ほとんど飲まない(飲めない)」が40.4%、「やめた」が4.4%となっている。(図Ⅱ-1-21)

また、「お酒を飲む」人(1,460人)の飲酒の頻度は、「毎日」の割合が28.0%で最も高く、次いで「月に1～3日」が24.3%、「週に1～2日」が21.3%となっている。(図Ⅱ-1-22)【本文80p】

図Ⅱ-1-21 飲酒の有無



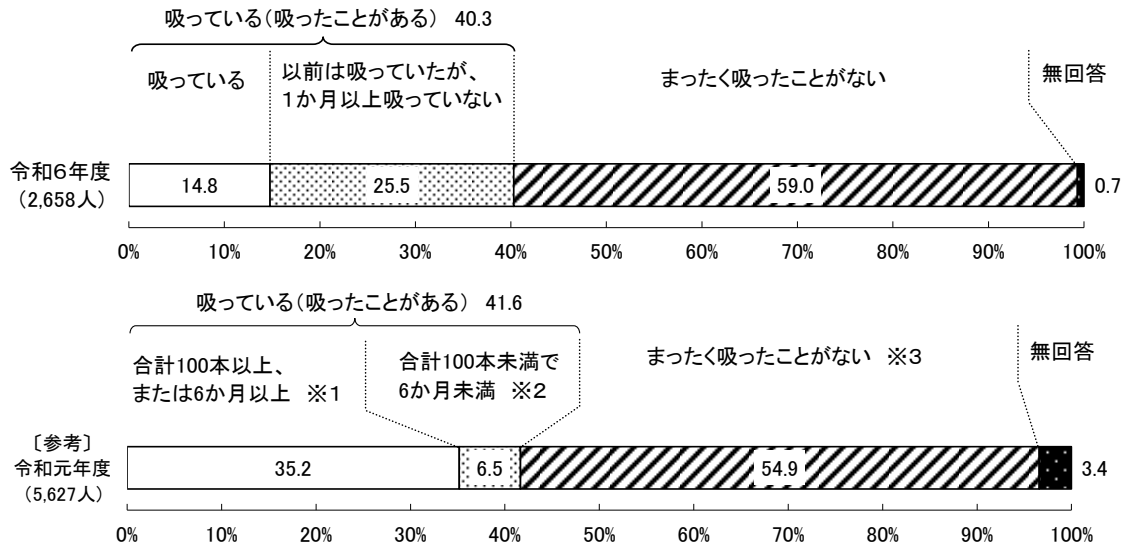
図Ⅱ-1-22 飲酒の頻度



9 喫煙経験の有無

20歳以上の世帯員(2,658人)に、現在、紙巻たばこまたは加熱式たばこを吸うか聞いたところ、「吸っている」の割合が14.8%、「以前は吸っていたが1か月以上吸っていない」が25.5%となっており、これらを合わせた「吸っている(吸ったことがある)」割合は40.3%となっている。一方、「まったく吸ったことがない」は59.0%となっている。(図Ⅱ-1-28)【本文88p】

図Ⅱ-1-28 喫煙経験の有無



(注) 令和元年度調査では、紙巻たばここと加熱式たばこで設問を分けて聞いており、喫煙経験の有無については以下のとおり集計した。

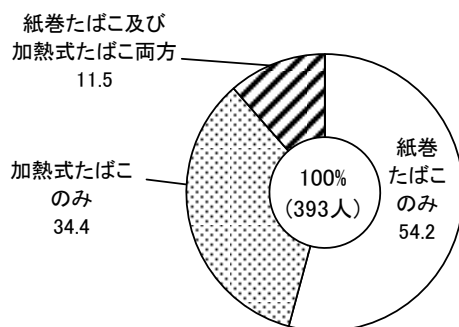
- ※1は、紙巻たばこ、加熱式たばこのいずれか又は両方の喫煙経験がある人のうち、「合計100本以上、または6か月以上」と回答した人の割合
- ※2は、紙巻たばこ、加熱式たばこのいずれか又は両方の喫煙経験がある人のうち、「合計100本未満で6か月未満」と回答した人(※1に該当する人を除く)の割合
- ※3は、紙巻たばこ及び加熱式たばこのいずれも「まったく吸ったことがない」と回答した人の割合

10 喫煙しているたばこの種類と喫煙頻度

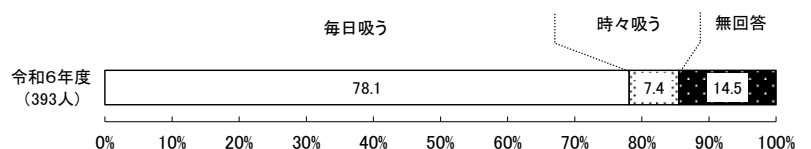
現在、「紙巻たばこ」または「加熱式たばこ」を吸っていると回答した人(393人)に、喫煙しているたばこの種類を聞いたところ、「紙巻たばこのみ」の割合が54.2%、「加熱式たばこのみ」が34.4%、「紙巻たばこ及び加熱式たばこ両方」が11.5%となっている。(図Ⅱ-1-29)

また、喫煙頻度を聞いたところ、「毎日吸う」割合が78.1%、「時々吸う」が7.4%となっている。(図Ⅱ-1-30)【本文91p】

図Ⅱ-1-29 喫煙しているたばこの種類



図Ⅱ-1-30 喫煙頻度

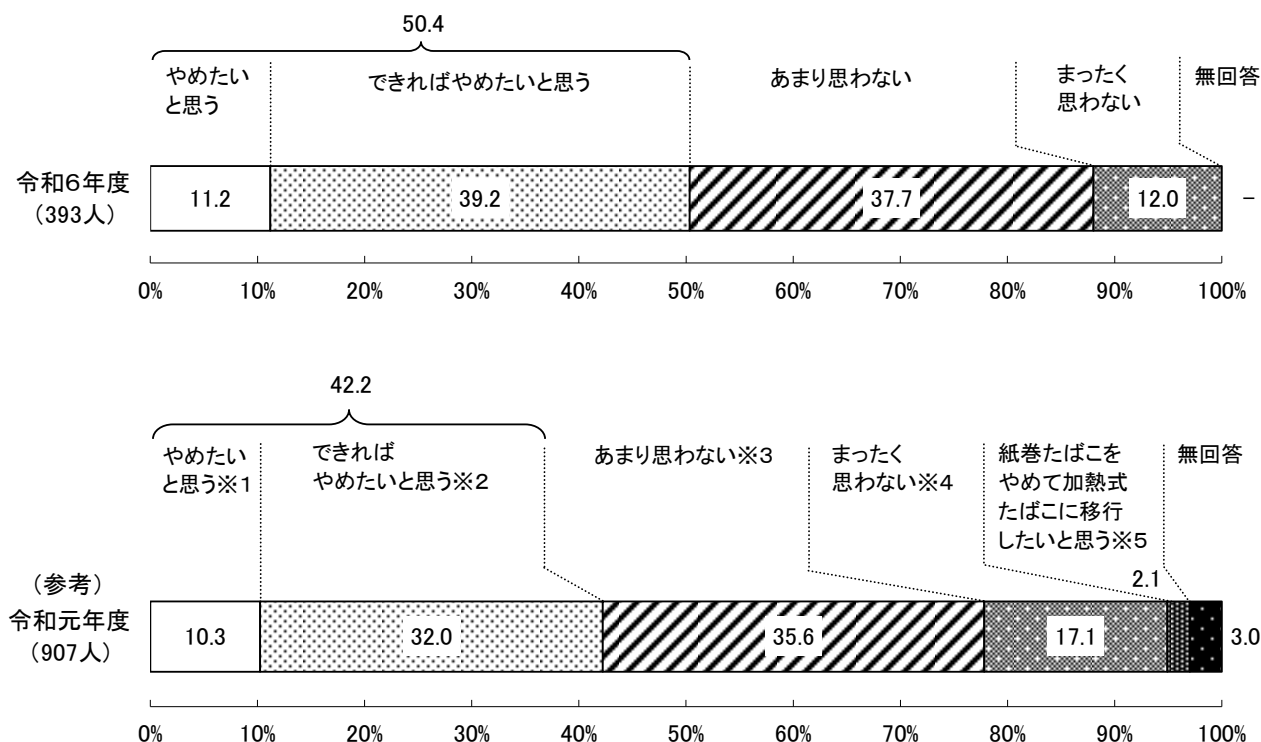


11 禁煙意欲の有無

現在、「紙巻たばこ」または「加熱式たばこ」を吸っていると回答した人（393 人）に、たばこをやめたいと思うか聞いたところ、「できればやめたいと思う」の割合が 39.2%で最も高く、次いで「あまり思わない」が 37.7%、「まったく思わない」が 12.0%となっている。

「やめたいと思う」「できればやめたいと思う」を合わせた禁煙意欲のある人の割合は 50.4%となっており、令和元年度調査（42.2%）と比べて 8.2 ポイント増えている。（図Ⅱ-1-37）【本文 100p】

図Ⅱ-1-37 禁煙意欲の有無



（注）令和元年度調査では、紙巻たばこ、加熱式たばこで設問を分けて聞いており、禁煙意欲については以下のとおり集計した。

- ※1は、紙巻たばこ、加熱式たばこのいずれか又は両方を吸う人のうち、「やめたいと思う」と回答した人（※2～5に該当する人を除く）の割合
- ※2は、紙巻たばこ、加熱式たばこのいずれか又は両方を吸う人のうち、「できればやめたいと思う」と回答した人（※3～5に該当する人を除く）の割合
- ※3は、紙巻たばこ、加熱式たばこのいずれか又は両方を吸う人のうち、「あまり思わない」と回答した人（※4、5に該当する人を除く）の割合
- ※4は、紙巻たばこ、加熱式たばこのいずれか又は両方を吸う人のうち、「まったく思わない」と回答した人（※5に該当する人を除く）の割合
- ※5は、紙巻たばこを吸う人のうち、「紙巻たばこをやめて加熱式たばこに移行したいと思う」と回答した人の割合

第2章 健康食品の使用状況

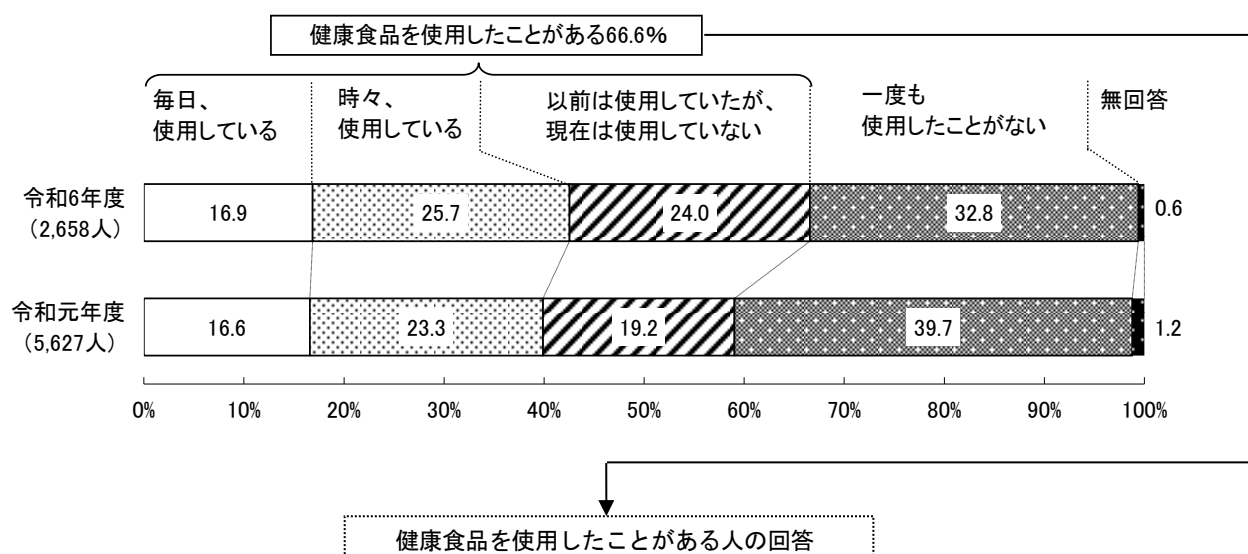
1 健康食品の使用実態と使用の目的[複数回答]、使用のきっかけ[複数回答]

20歳以上の世帯員（2,658人）に、これまでに健康食品を使用したことがあるか聞いたところ、「毎日、使用している」の割合が16.9%、「時々、使用している」が25.7%、「以前は使用していたが、現在は使用していない」が24.0%となっており、これらを合わせた健康食品を使用したことがある人の割合は66.6%となっている。（図Ⅱ-2-2）

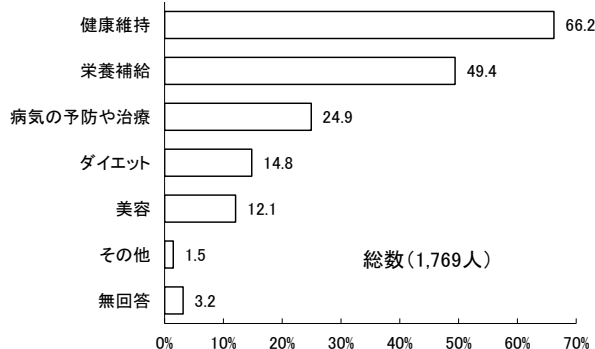
また、健康食品を使用したことがある人（1,769人）に、使用する目的は何か聞いたところ、「健康維持」が66.2%となっている。（図Ⅱ-2-3）

同じく健康食品を使用したことがある人に使用するようになったきっかけは何か聞いたところ、「家族・友人・知人の口コミ」の割合が32.1%で最も高く、次いで「テレビ・ラジオの番組やCM」が29.4%となっている。（図Ⅱ-2-4）【本文 107p】

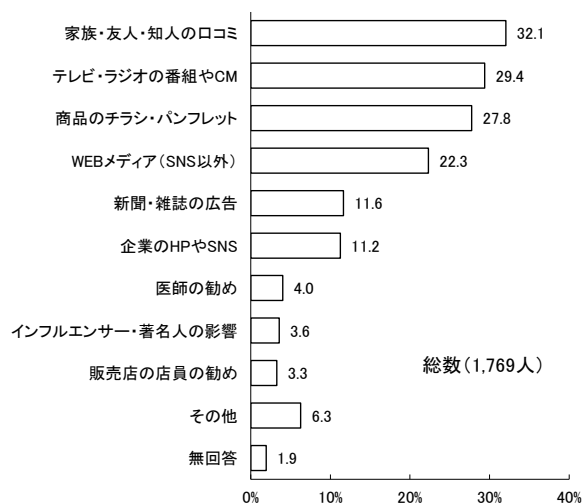
図Ⅱ-2-2 健康食品の使用実態



図Ⅱ-2-3 健康食品の使用の目的[複数回答]



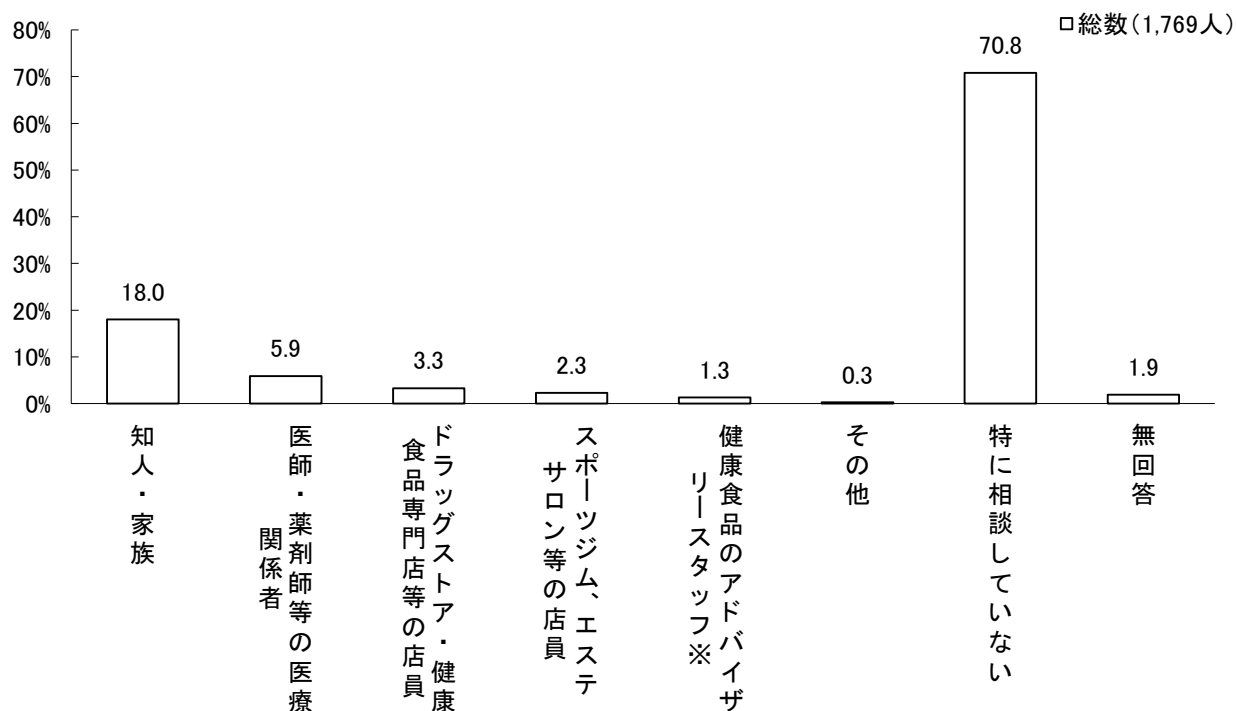
図Ⅱ-2-4 健康食品の使用のきっかけ
[複数回答]



2 健康食品を使い始める前の相談相手〔複数回答〕

健康食品を使用したことがある人（1,769人）に、健康食品を使い始める前に相談するか聞いたところ、「特に相談していない」の割合が70.8%で最も高く、次いで「知人・家族」が18.0%、「医師・薬剤師等の医療関係者」が5.9%となっている。（図Ⅱ-2-8）【本文113p】

図Ⅱ-2-8 健康食品を使い始める前の相談相手〔複数回答〕



※ アドバイザリースタッフ

いわゆる「健康食品」の摂取を検討されている方または既に摂取されている方が、自らの健康づくりを進める上で目的にあった食品や、食生活の状況、健康状態に応じて、安全かつ適切に選択することができるように、健康食品に含まれる成分の機能や活用方法等について、正しく情報を提供できる助言者のこと。

（出典：『『アドバイザースタッフ』ホームページ』消費者庁）

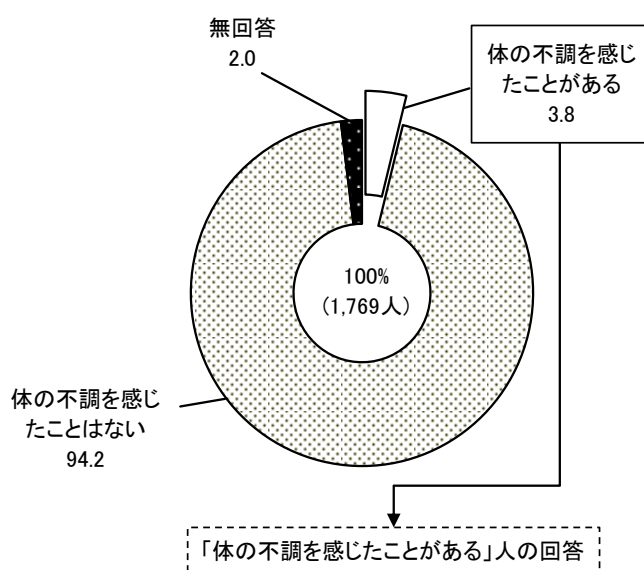
3 健康食品の使用による体の不調の有無とその症状[複数回答]、医療機関の受診の有無

健康食品を使用したことがある人（1,769人）に、健康食品の使用によって体の不調を感じたことがあるか聞いたところ、「体の不調を感じたことがある」の割合が3.8%、「体の不調を感じたことはない」の割合が94.2%となっている。（図Ⅱ-2-11）

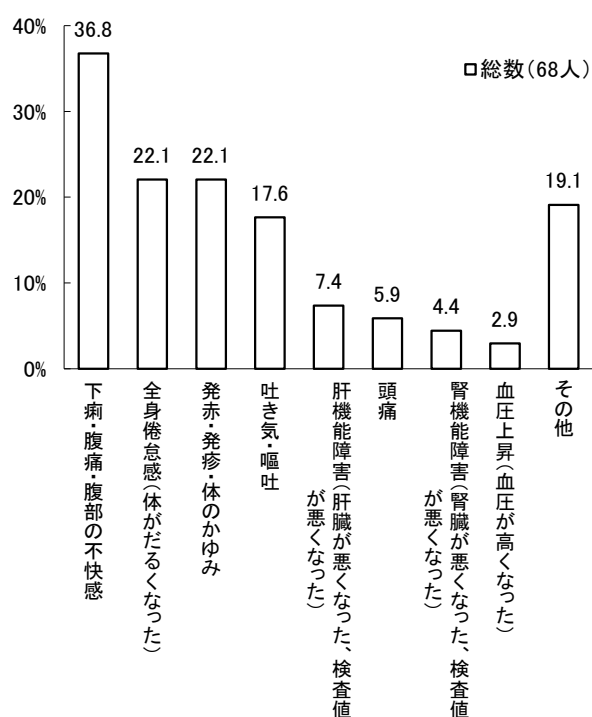
体の不調を感じたことがある人（68人）に、その症状を聞いたところ、「下痢・腹痛・腹部の不快感」の割合が36.8%、「全身倦怠感（体がだるくなった）」及び「発赤・発疹・体のかゆみ」が22.1%となっている。（図Ⅱ-2-12）

さらに、その症状で医療機関を受診したか聞いたところ、「受診した」割合は20.6%となっている。（図Ⅱ-2-13）【本文117p】

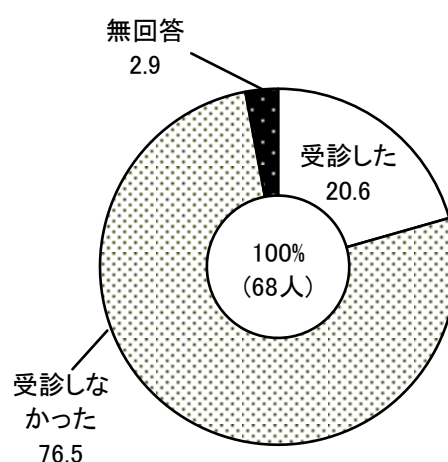
図Ⅱ-2-11 健康食品の使用による体の不調の有無



図Ⅱ-2-12 健康食品による体の不調（症状）
[複数回答]



図Ⅱ-2-13 健康食品による体の不調による
医療機関の受診の有無



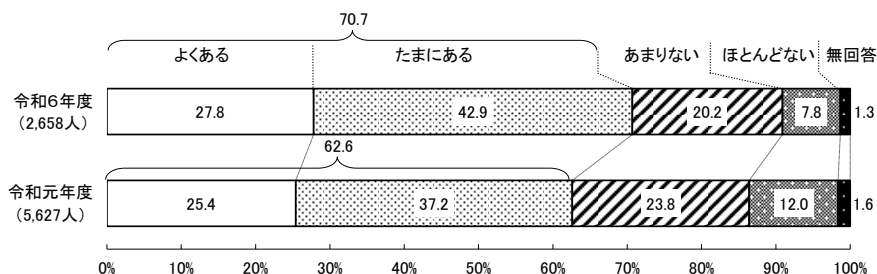
第3章 悩みやストレスの状況

1 悩みやストレスの有無

20歳以上の世帯員(2,658人)に、毎日の生活の中での、悩みやストレスの有無を聞いたところ、「たまにある」の割合が42.9%、「よくある」が27.8%、「あまりない」が20.2%となっている。

「よくある」と「たまにある」を合わせた割合は令和元年度調査(62.6%)より8.1ポイント増加し、70.7%となっている。(図Ⅱ-3-1)【本文119p】

図Ⅱ-3-1 悩みやストレスの有無

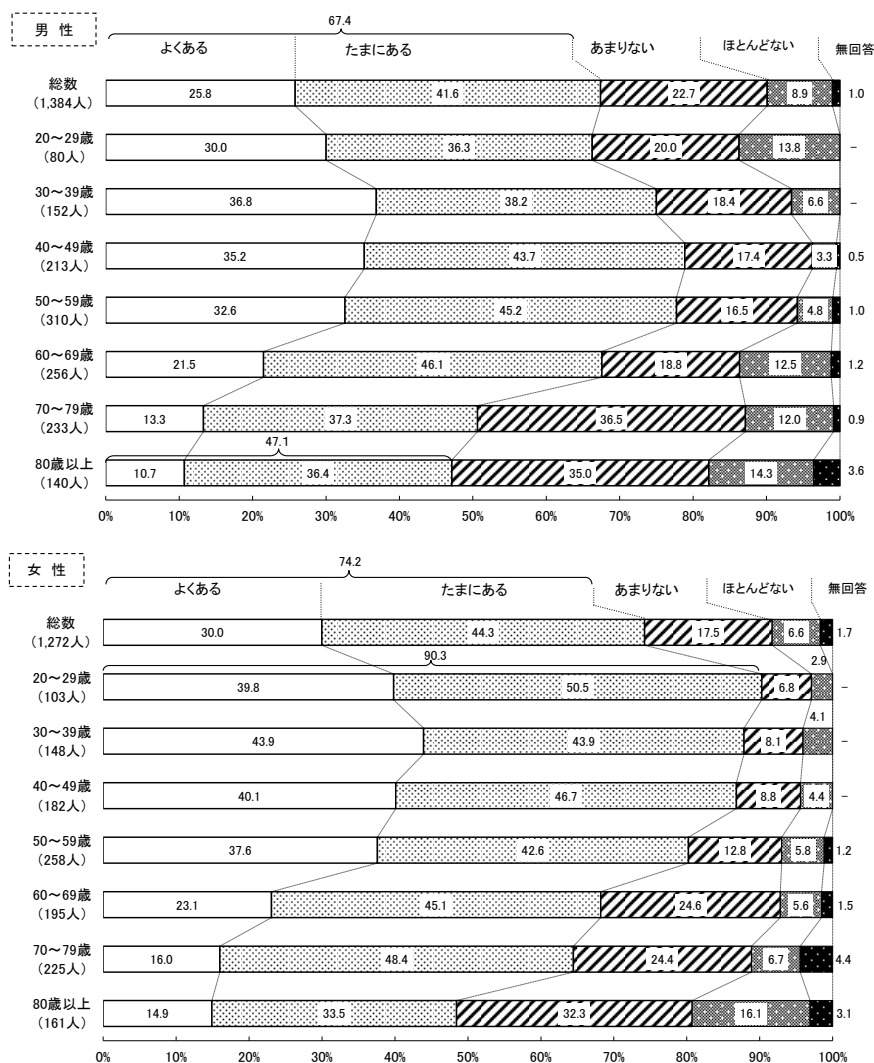


(1) 悩みやストレスの有無一性・年齢階級別

悩みやストレスの有無を性・年齢階級別にみると、悩みやストレスが「よくある」と「たまにある」を合わせた「悩みやストレスがある」割合は、男性67.4%、女性74.2%となっており、20代女性では90.3%となっている一方で、80歳以上の男性では47.1%となっている。(図Ⅱ-3-2)

【本文120p】

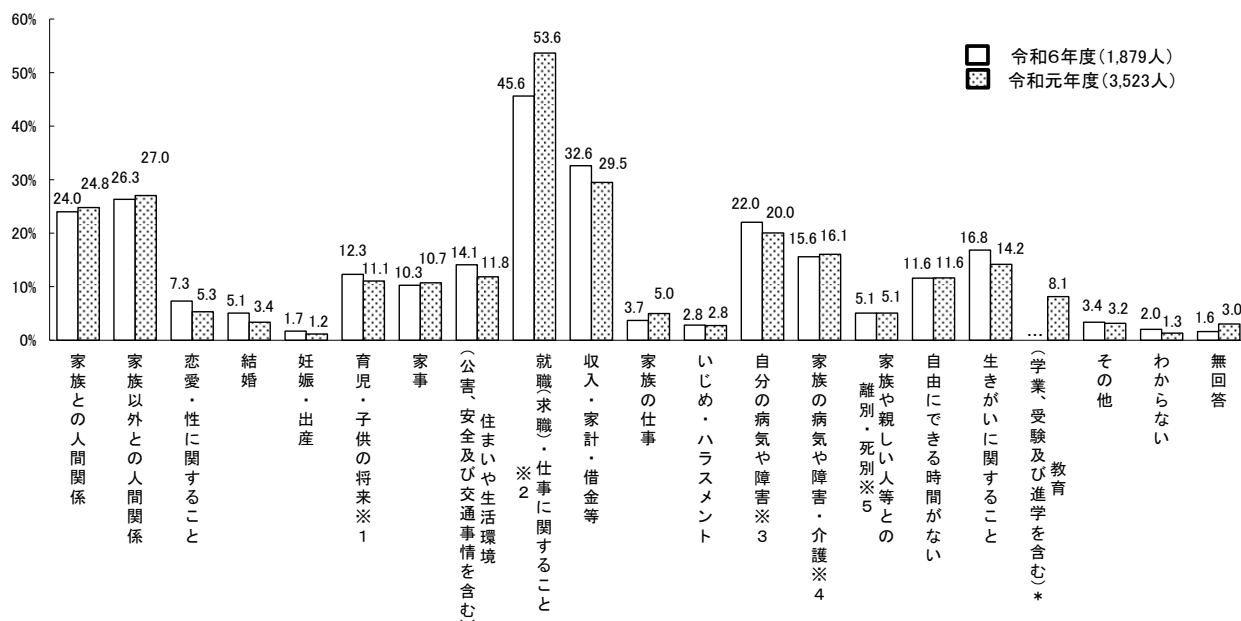
図Ⅱ-3-2 悩みやストレスの有無一性・年齢階級別



2 悩みやストレスの原因〔複数回答〕

悩みやストレスが「よくある」「たまにある」と回答した人（1,879人）に、その原因を聞いたところ、「就職（求職）・仕事に関する事」の割合が45.6%で最も高く、次いで「収入・家計・借金等」が32.6%、「家族以外との人間関係」が26.3%となっている。（図Ⅱ-3-5）【本文124p】

図Ⅱ-3-5 悩みやストレスの原因〔複数回答〕



（注1） ※1は、令和元年度調査では「育児」、「子供の結婚」に選択肢を分けていた。

（注2） ※2は、令和元年度調査では「自分の仕事」、「就職（求職）に関する事」に選択肢を分けていた。

（注3） ※3は、令和元年度調査では「自分の病気や介護」としていた。

（注4） ※4は、令和元年度調査では「家族の病気や介護」としていた。

（注5） ※5は、令和元年度調査では「家族や親しい人等との死別」、「離婚」に選択肢を分けていた。

（注6） *は、令和6年度調査では選択肢を設けていない。

(1) 悩みやストレスの原因[複数回答]ー性・年齢階級別

悩みやストレスの原因を性別でみると、男性では、「就職（求職）・仕事に関する事」の割合が51.2%、「収入・家計・借金等」が31.0%となっている。女性では、「就職（求職）・仕事に関する事」の割合が39.9%、「収入・家計・借金等」が34.3%となっている。

性・年齢階級別にみると、「就職（求職）・仕事に関する事」の割合は、20代～50代男性では6割を超え（62.7%～66.1%）、20代女性では7割を超えている（73.1%）。

65歳以上では、「自分の病気や障害」の割合が37.6%、「収入・家計・借金等」が25.3%となっている。（表Ⅱ-3-2）【本文125p】

表Ⅱ-3-2 悩みやストレスの原因[複数回答]ー性・年齢階級別

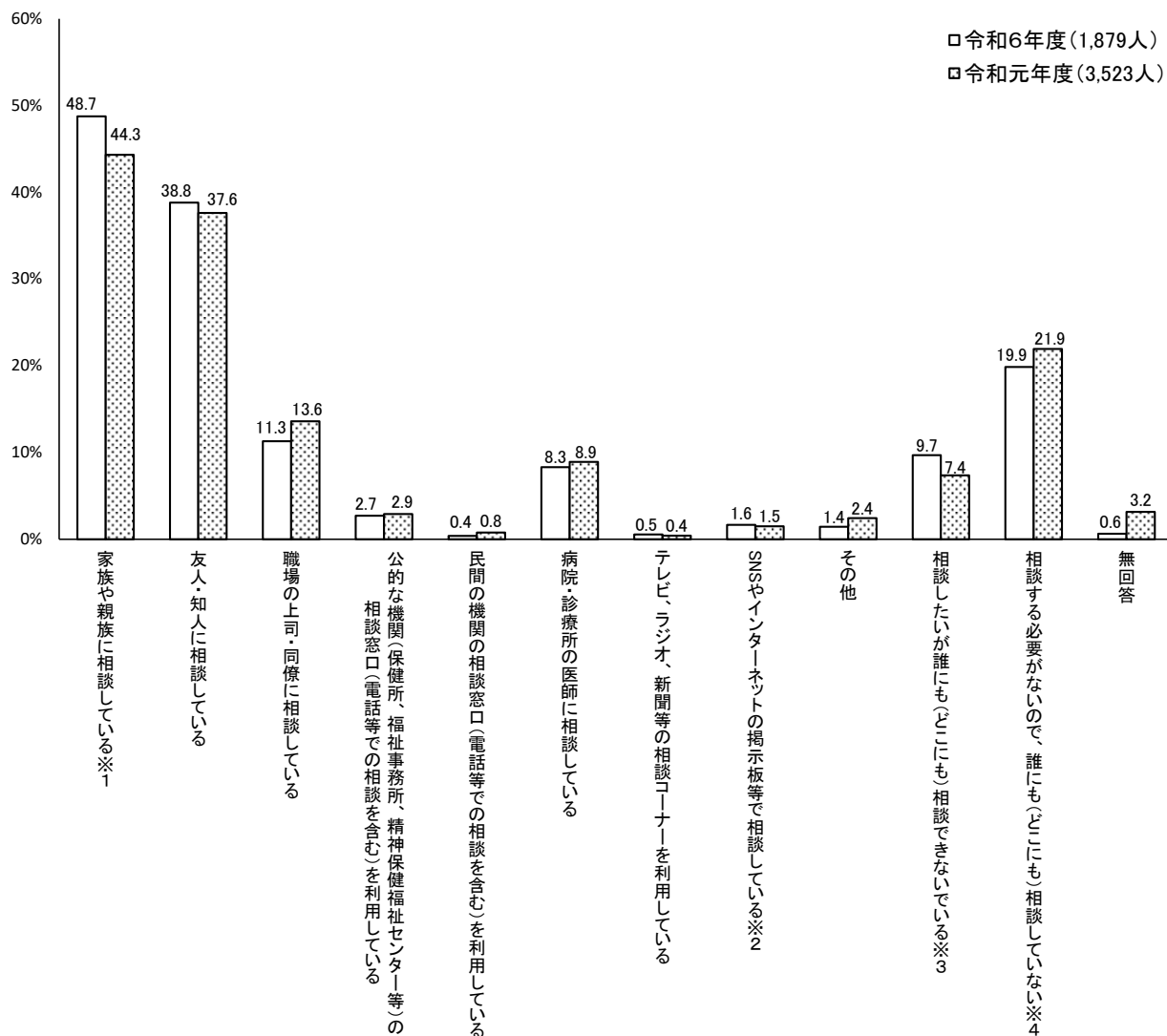
	総数	家族との人間関係	家族以外との人間関係	恋愛・性に関する事	結婚	妊娠・出産	育児・子供の将来	家事	住まいや生活環境（公害、安全及び交通事情を含む）	就職（求職）・仕事に関する事	収入・家計・借金等	家族の仕事	いじめ・ハラスメント	自分の病気や障害	家族の病気や障害・介護	死別 家族や親しい人等との離別・	自由にできる時間がない	生きがいにに関する事	その他	わからない	無回答
総数	100.0 (1,879)	24.0	26.3	7.3	5.1	1.7	12.3	10.3	14.1	45.6	32.6	3.7	2.8	22.0	15.6	5.1	11.6	16.8	3.4	2.0	1.6
男	100.0 (933)	21.3	22.0	6.9	4.3	0.3	10.4	6.2	12.4	51.2	31.0	3.4	2.3	21.9	14.1	3.6	12.1	17.0	2.1	2.8	0.9
20～29歳	100.0 (53)	5.7	20.8	22.6	9.4	-	9.4	5.7	17.0	64.2	26.4	-	-	1.9	-	-	20.8	20.8	5.7	1.9	-
30～39歳	100.0 (114)	23.7	26.3	19.3	18.4	1.8	15.8	8.8	14.9	64.9	38.6	7.0	5.3	10.5	11.4	3.5	17.5	21.1	2.6	-	1.8
40～49歳	100.0 (168)	22.6	20.8	10.1	3.6	0.6	16.1	6.0	14.9	66.1	29.2	4.2	2.4	13.1	6.0	1.2	14.3	18.5	1.2	1.8	0.6
50～59歳	100.0 (241)	23.2	21.6	4.1	2.9	-	12.4	5.4	10.8	62.7	31.1	4.1	3.7	16.2	14.5	2.9	12.4	12.9	1.2	2.5	0.4
60～69歳	100.0 (173)	18.5	23.1	1.2	-	-	5.2	5.2	10.4	52.0	35.8	2.3	0.6	25.4	17.9	4.6	6.4	15.6	1.7	3.5	0.6
70～79歳	100.0 (118)	24.6	23.7	0.8	0.8	-	5.9	5.1	11.0	15.3	26.3	1.7	0.8	40.7	20.3	7.6	8.5	19.5	2.5	3.4	1.7
80歳以上	100.0 (66)	21.2	13.6	-	-	-	1.5	10.6	12.1	-	21.2	1.5	-	57.6	28.8	6.1	10.6	18.2	4.5	9.1	1.5
女	100.0 (944)	26.6	30.5	7.7	5.8	3.1	14.1	14.3	15.8	39.9	34.3	3.9	3.4	22.1	17.1	6.5	11.1	16.6	4.6	1.3	2.3
20～29歳	100.0 (93)	19.4	37.6	32.3	20.4	5.4	6.5	8.6	6.5	73.1	38.7	2.2	2.2	7.5	3.2	1.1	11.8	17.2	1.1	2.2	-
30～39歳	100.0 (130)	25.4	39.2	14.6	13.8	12.3	29.2	26.2	18.5	48.5	39.2	4.6	4.6	18.5	5.4	2.3	16.2	20.8	2.3	-	1.5
40～49歳	100.0 (158)	32.3	35.4	8.2	8.2	5.1	34.2	19.0	18.4	57.6	41.8	1.9	3.8	15.2	15.8	4.4	14.6	12.7	2.5	0.6	-
50～59歳	100.0 (207)	31.4	33.8	4.3	1.9	-	12.1	10.1	15.9	47.8	34.3	6.8	6.3	20.8	25.1	7.2	13.0	15.0	6.3	1.0	-
60～69歳	100.0 (133)	21.8	24.1	1.5	0.8	-	6.0	11.3	21.1	30.1	39.1	3.8	3.8	21.1	22.6	9.0	6.8	15.8	5.3	0.8	4.5
70～79歳	100.0 (145)	26.2	21.4	-	-	-	0.7	13.1	17.2	10.3	24.1	3.4	-	35.2	20.7	9.7	6.9	16.6	3.4	1.4	6.2
80歳以上	100.0 (78)	21.8	16.7	-	-	-	1.3	10.3	5.1	1.3	16.7	2.6	-	41.0	17.9	11.5	5.1	23.1	12.8	5.1	6.4
(再掲) 総数 65歳以上	100.0 (542)	24.4	19.4	0.4	0.2	-	3.1	9.8	13.1	14.9	25.3	2.8	0.4	37.6	21.4	8.7	7.4	18.5	5.0	3.5	3.9
男 65歳以上	100.0 (258)	22.9	19.0	0.8	0.4	-	5.0	7.0	12.4	20.9	25.6	2.3	0.4	40.7	22.5	6.2	8.1	19.4	3.1	4.7	1.6
女 65歳以上	100.0 (284)	25.7	19.7	-	-	-	1.4	12.3	13.7	9.5	25.0	3.2	0.4	34.9	20.4	10.9	6.7	17.6	6.7	2.5	6.0

3 悩みやストレスの相談先[複数回答]

悩みやストレスがあると回答した人（1,879人）に、悩みやストレスの相談先を聞いたところ、「家族や親族に相談している」の割合が48.7%、「友人・知人に相談している」が38.8%となっている。

一方で、「相談する必要はないので誰にも（どこにも）相談していない」の割合は19.9%となっている。（図Ⅱ-3-6）【本文128p】

図Ⅱ-3-6 悩みやストレスの相談先[複数回答]



(注1) ※1は、令和元年度調査では「家族に相談している」としていた。

(注2) ※2は、令和元年度調査では「メール相談の相談員に相談している」、「インターネットを通じた交流の仲間に相談している」に選択肢を分けていた。

(注3) ※3は、令和元年度調査では「相談したいがどこに相談したらよいかわからない」、「相談したいが誰にも相談できない」に選択肢を分けていた。

(注4) ※4は、令和元年度調査では「相談する必要はないので誰にも相談していない」としていた。

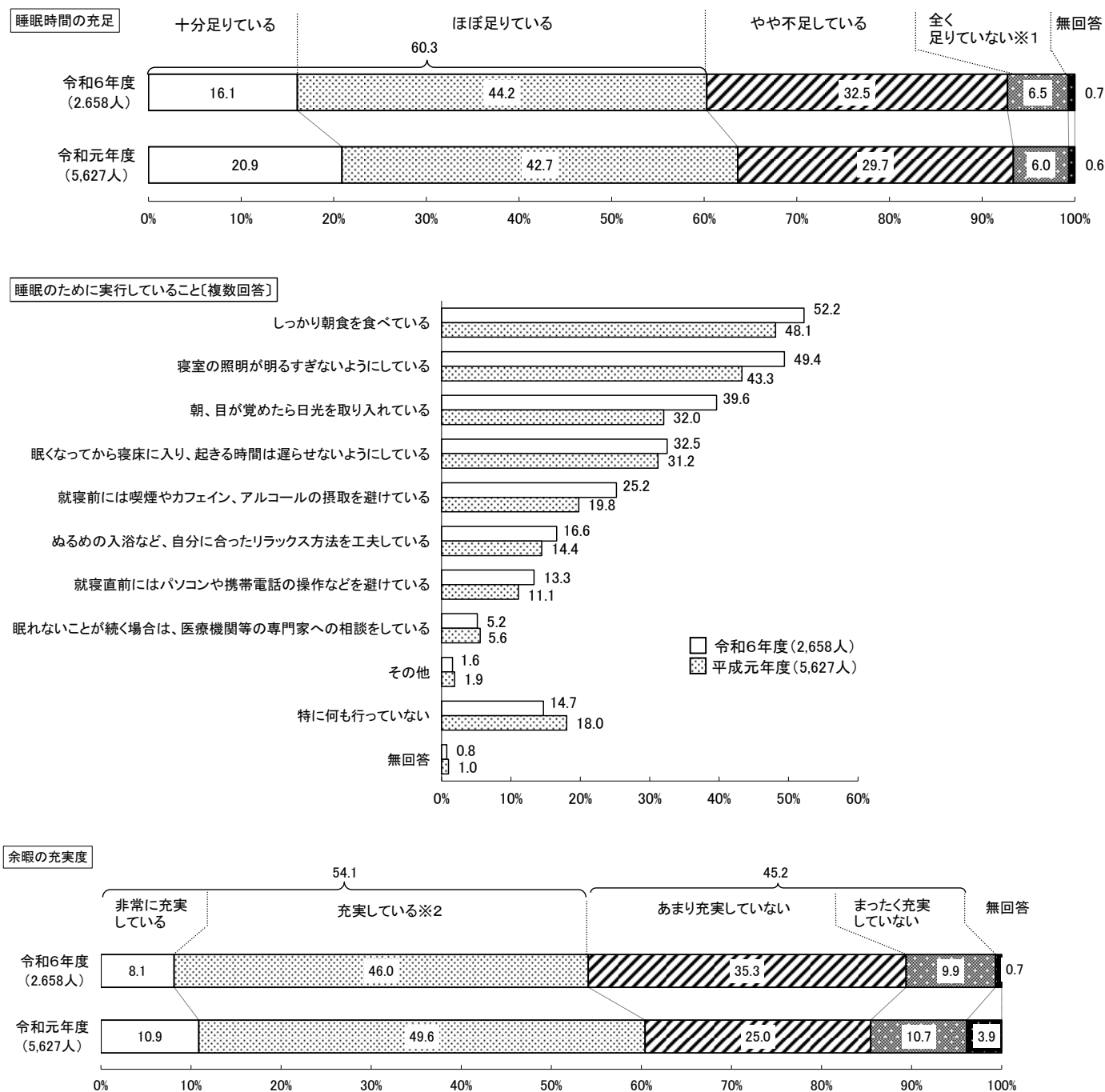
4 睡眠時間の充足、睡眠のために実行していること[複数回答]、余暇の充実度

20歳以上の世帯員（2,658人）に、睡眠時間の充足について聞いたところ、「ほぼ足りている」の割合が44.2%となっており、「十分足りている」（16.1%）と合わせた割合は60.3%となっている。

睡眠のために実行していることについて聞いたところ、「しっかり朝食を食べている」の割合が52.2%で最も高くなっている。一方で、「特に何も行ってない」の割合は14.7%となっている。

余暇の充実度について聞いたところ、「充実している」の割合が46.0%で最も高く、「非常に充実している」（8.1%）と合わせた割合は54.1%となっている。一方で「あまり充実していない」と「まったく充実していない」を合わせた割合は45.2%となっている。（図Ⅱ-3-7）【本文131p】

図Ⅱ-3-7 睡眠時間の充足、睡眠のために実行していること[複数回答]、余暇の充実度



（注1） ※1は、令和元年度調査では「まったく不足している」としていた。

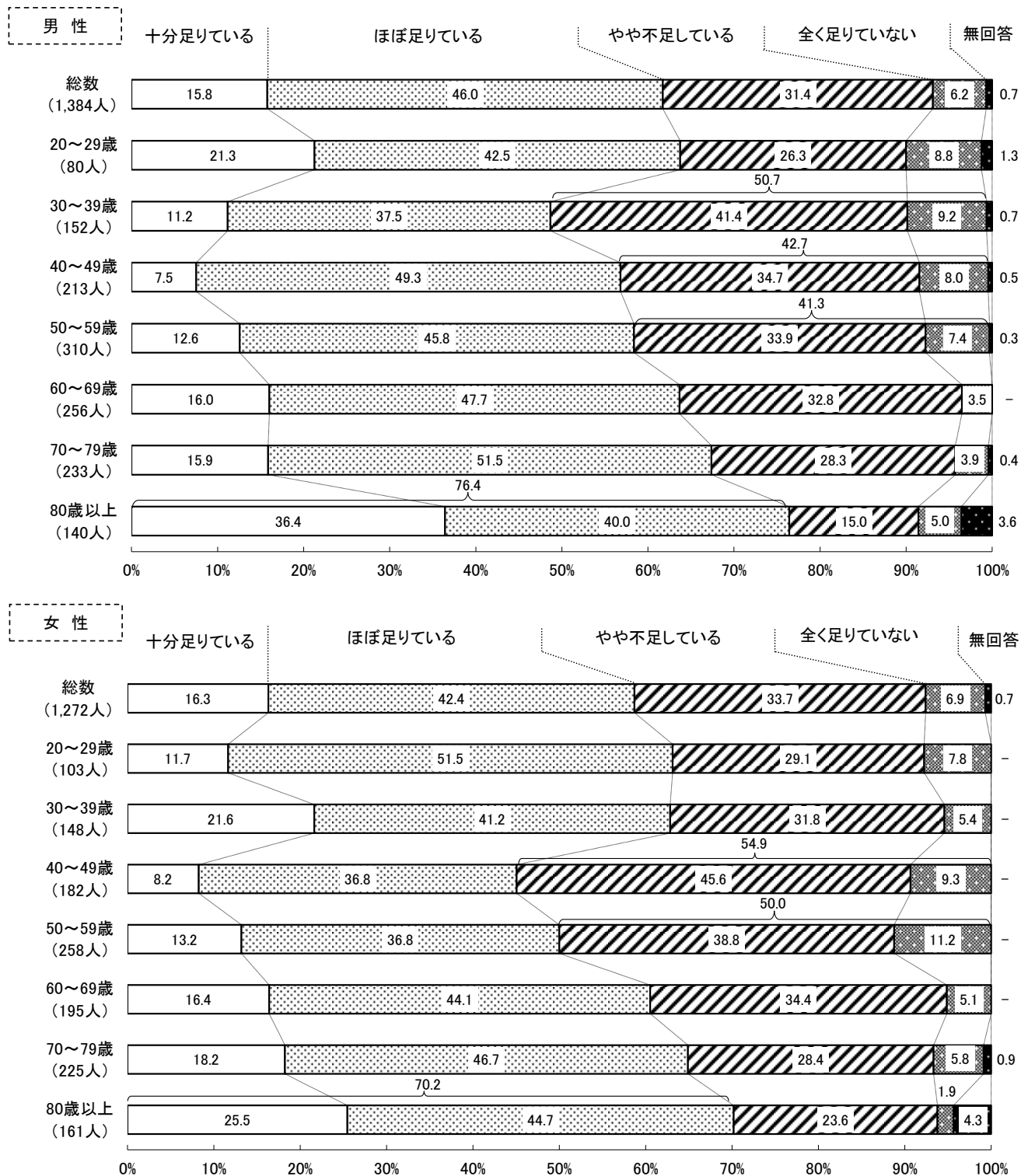
（注2） ※2は、令和元年度調査では「まあ充実している」としていた。

(1) 睡眠時間の充足一性・年齢階級別

睡眠時間の充足を性・年齢階級別にみると、「やや不足している」と「全く足りていない」を合わせた、睡眠時間が「不足している」割合は、30代～50代の男性で4割を超えており（41.3%～50.7%）、40代～50代の女性で5割を超えている（50.0%～54.9%）。

一方で、「十分足りている」と「ほぼ足りている」を合わせた、睡眠時間が「足りている」割合は、80歳以上では男性76.4%、女性70.2%となっている。（図Ⅱ-3-8）【本文132p】

図Ⅱ-3-8 睡眠時間の充足一性・年齢階級別



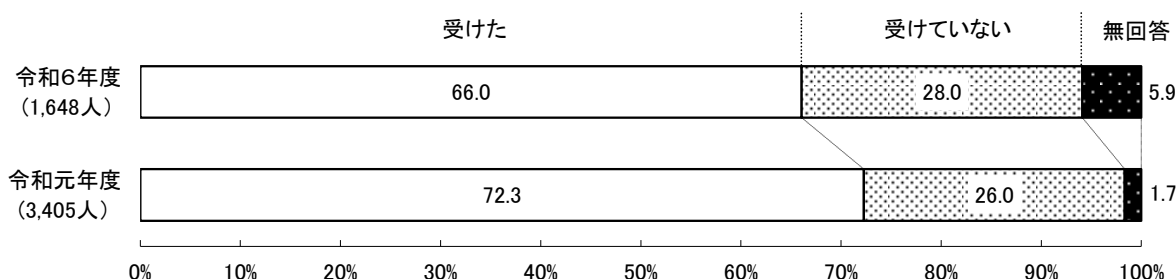
第4章 特定健康診査・特定保健指導の状況

集計対象世帯員（20歳以上）2,658人のうち、40歳以上75歳未満の1,648人が調査対象

1 過去1年間の特定健康診査の受診の有無

過去1年間に、特定健康診査（※）を受診したか聞いたところ、「受けた」割合が66.0%、「受けていない」が28.0%となっている。（図Ⅱ-4-1）【本文 141p】

図Ⅱ-4-1 過去1年間の特定健康診査の受診の有無



（注1） 加入する医療保険者が実施する特定健康診査のほか、職場の事業主が実施する定期健康診断や人間ドックにおいて受けている場合も含む。

（注2） がん検診のみの受診、妊産婦健診、歯の健康診査、病院や診療所で行う診療としての検査は含まない。

※ 特定健康診査

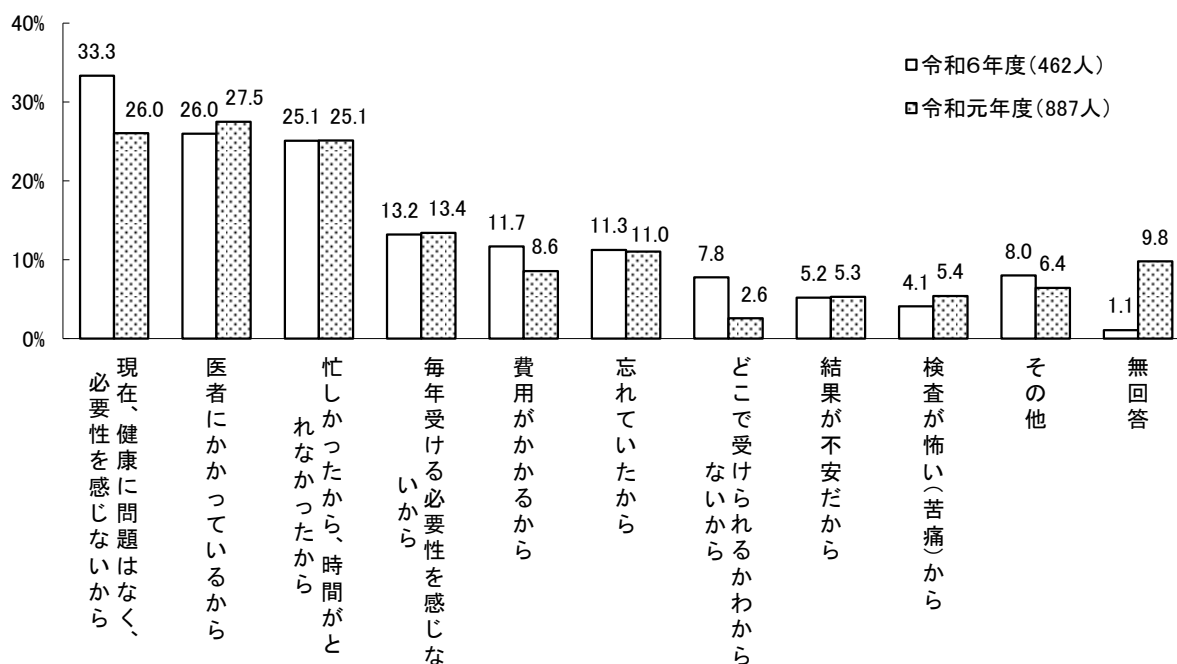
医療保険者は、40～74歳の加入者（被保険者及び被扶養者）に対し、特定健康診査（メタボリックシンドロームに着目した検査項目での健康診査）を行うものとされている。ただし、加入者が人間ドック等で特定健康診査に相当する検査を受け、その結果を証明する書面の提出があった場合は、特定健康診査を受けたものとみなされる。

また、加入者が、労働安全衛生法（昭和47年法律第57号）その他の法令に基づき行われる特定健康診査に相当する健康診断を受けた場合又は受けることができる場合は、特定健康診査の全部又は一部を行ったものとする」とされている。

2 特定健康診査を受けなかった理由〔複数回答〕

過去1年間に特定健康診査を受けなかった人（462人）に、その理由を聞いたところ、「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が33.3%、「医者にかかっているから」が26.0%、「忙しかったから、時間がとれなかったから」が25.1%となっている。（図Ⅱ-4-20）【本文 158p】

図Ⅱ-4-20 特定健康診査を受けなかった理由〔複数回答〕



(1) 特定健康診査を受けなかった理由〔複数回答〕一性・年齢階級別

特定健康診査を受けなかった理由を性・年齢階級別にみると、「医者にかかっているから」の割合は、70～74歳では、男性 54.3%、女性 60.7%となっている。（表Ⅱ-4-6）【本文 159p】

表Ⅱ-4-6 特定健康診査を受けなかった理由〔複数回答〕一性・年齢階級別

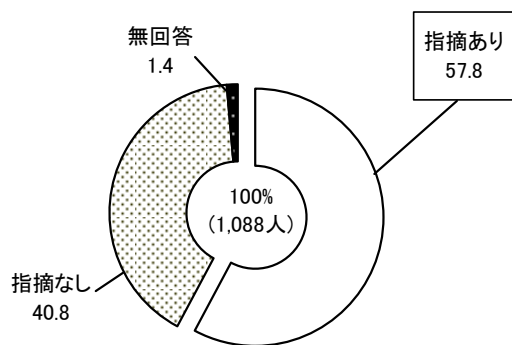
	総数	現在、健康に問題はなく、 必要性を感じないから	毎年受ける必要性を感じ ないから	医者にかかっているから	どこで受けられるか分から ないから	検査がこわい（苦痛）から	忙しかったから、 時間がとれなかったから	結果が不安だから	費用がかかるから	忘れていたから	その他	無回答
総数	100.0 (462)	33.3	13.2	26.0	7.8	4.1	25.1	5.2	11.7	11.3	8.0	1.1
男	100.0 (256)	35.9	17.2	23.4	8.6	2.0	23.4	3.5	13.7	12.1	5.9	1.2
40～49歳	100.0 (62)	45.2	12.9	-	14.5	1.6	35.5	4.8	17.7	24.2	8.1	1.6
50～59歳	100.0 (91)	36.3	14.3	19.8	6.6	4.4	27.5	2.2	14.3	11.0	7.7	-
60～69歳	100.0 (68)	30.9	19.1	33.8	8.8	-	11.8	4.4	13.2	5.9	4.4	1.5
70～74歳	100.0 (35)	28.6	28.6	54.3	2.9	-	14.3	2.9	5.7	5.7	-	2.9
女	100.0 (206)	30.1	8.3	29.1	6.8	6.8	27.2	7.3	9.2	10.2	10.7	1.0
40～49歳	100.0 (50)	32.0	6.0	12.0	16.0	6.0	38.0	14.0	16.0	18.0	12.0	-
50～59歳	100.0 (70)	30.0	5.7	22.9	4.3	7.1	31.4	4.3	5.7	10.0	11.4	-
60～69歳	100.0 (58)	29.3	10.3	36.2	-	5.2	20.7	5.2	8.6	8.6	13.8	3.4
70～74歳	100.0 (28)	28.6	14.3	60.7	-	10.7	10.7	7.1	7.1	-	-	-

3 特定健康診査結果の指摘の有無と指摘内容〔複数回答〕

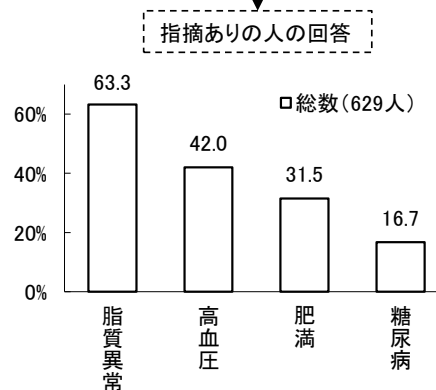
過去1年間に特定健康診査を受けた人（1,088人）に、「肥満」「高血圧」「糖尿病」「脂質異常（注）」のいずれかの指摘を受けたか聞いたところ、「指摘あり」の割合が 57.8%、「指摘なし」が 40.8%となっている。（図Ⅱ-4-8）

また、「指摘あり」と回答した人（629人）の指摘内容をみると、「脂質異常」の割合が 63.3%と最も高く、次いで「高血圧」が 42.0%、「肥満」が 31.5%となっている。（図Ⅱ-4-9）【本文 147p】

図Ⅱ-4-8 特定健康診査結果の指摘の有無



図Ⅱ-4-9 特定健康診査結果の指摘内容〔複数回答〕



（注）脂質異常とは次のいずれかを指す。

- ・ 中性脂肪が高い、HDL コレステロールが低い、LDL コレステロールが高い。

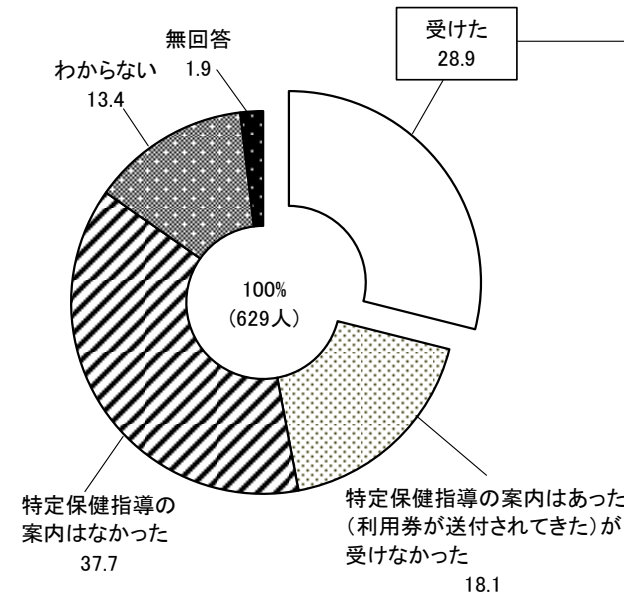
4 特定保健指導の有無と指導の種類、指導内容の実行の程度

特定健康診査の結果、「指摘あり」と回答した人（629人）に、特定保健指導（※）を受けたか聞いたところ、「受けた」の割合が28.9%となっている。一方で、「特定保健指導の案内はなかった」の割合は37.7%、「特定保健指導の案内はあった（利用券が送付されてきた）が受けなかった」は18.1%となっている。（図Ⅱ-4-10）

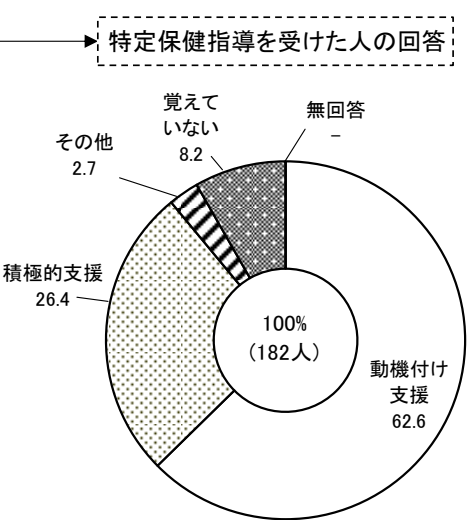
また、特定保健指導を受けた人（182人）に、指導の種類を聞いたところ、「動機付け支援」の割合が62.6%、「積極的支援」が26.4%となっている。（図Ⅱ-4-11）

さらに、特定保健指導で計画した内容をどの程度実行しているか聞いたところ、「おおむね実行している」の割合が37.4%、「一部実行している」が36.8%となっており、これらを合わせた割合は74.2%となっている。（図Ⅱ-4-12）【本文150p】

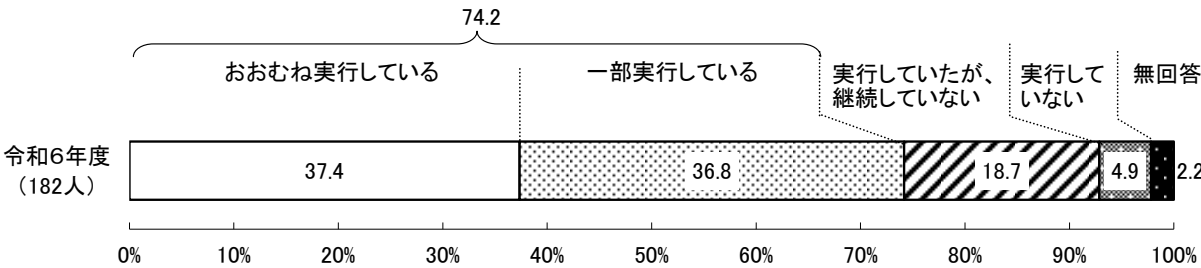
図Ⅱ-4-10 特定保健指導の有無



図Ⅱ-4-11 特定保健指導の種類



図Ⅱ-4-12 指導内容の実行の程度



（注）回答別比率を合算した比率（70.3%）は、回答別人数を合算して求めているため、比率の内訳の合計とは一致しない。

※ 特定保健指導

<対象者>

腹囲	血糖、脂質、 血圧	喫煙歴	対象	
			40-64歳	65-74歳
男性85cm以上・ 女性90cm以上の方	2つ以上該当	あり	積極的 支援	動機付け 支援
	1つ該当			
男性85cm未満・ 女性90cm未満の方で、 BMI(体重(kg)/身長(m) ²) が25以上の方	3つ該当	あり	積極的 支援	動機付け 支援
	2つ該当			
	1つ該当			

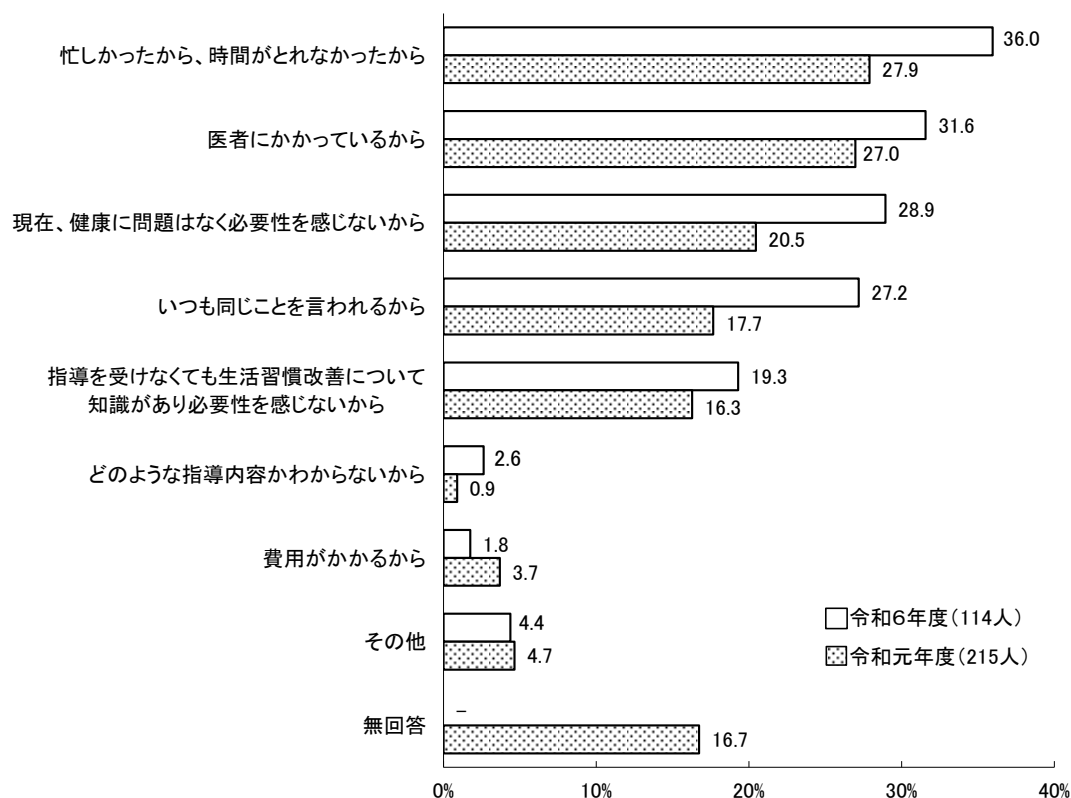
<指導の種類>

- ・動機付け支援：原則1回の保健指導を受ける
- ・積極的支援：3～6か月の間、複数回、継続的に保健指導（面接・電話・メールなど）を受ける

5 特定保健指導を受けなかった理由[複数回答]

特定保健指導の案内はあった（利用券が送付されてきた）が受けなかった人（114人）に、その理由を聞いたところ、「忙しかったから、時間がとれなかったから」の割合が36.0%、「医者にかかっているから」が31.6%となっている。（図Ⅱ-4-15）【本文 154p】

図Ⅱ-4-15 特定保健指導を受けなかった理由[複数回答]

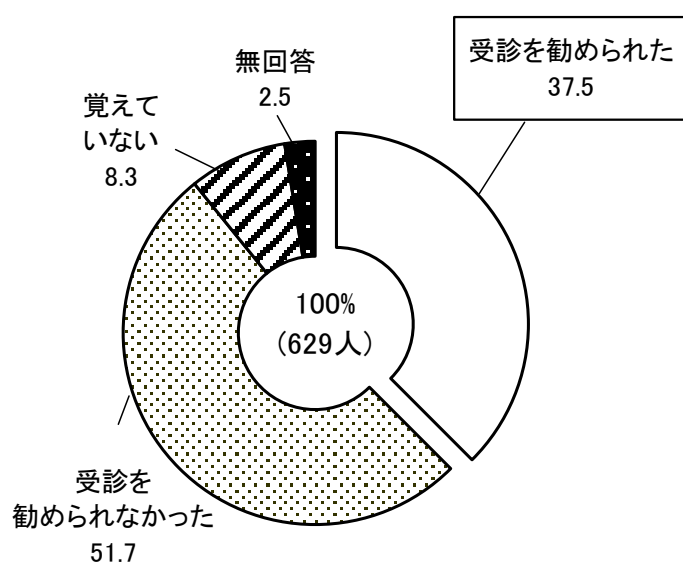


6 医療機関受診勧奨の有無と受診の有無

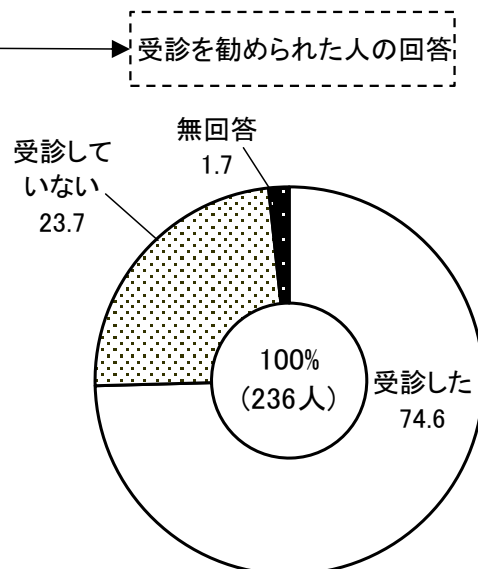
特定健康診査の結果、「指摘あり」と回答した人（629人）に、医療機関を受診するよう勧められたか聞いたところ、「受診を勧められた」人の割合は37.5%となっている。（図Ⅱ-4-16）

また、「受診を勧められた」人（236人）に、その後医療機関を受診したか聞いたところ、「受診した」人の割合は74.6%となっている。（図Ⅱ-4-17）【本文 155p】

図Ⅱ-4-16 医療機関受診勧奨の有無



図Ⅱ-4-17 医療機関の受診の有無



（注）検査目的の受診は除く。

第5章 がん検診の受診状況

1 がん検診の受診状況

20歳以上の世帯員(2,658人)に、がん検診の受診状況を聞いたところ、胃がん検診については、「1年に1回程度」と「2年に1回程度」を合わせた割合が39.6%となっている。

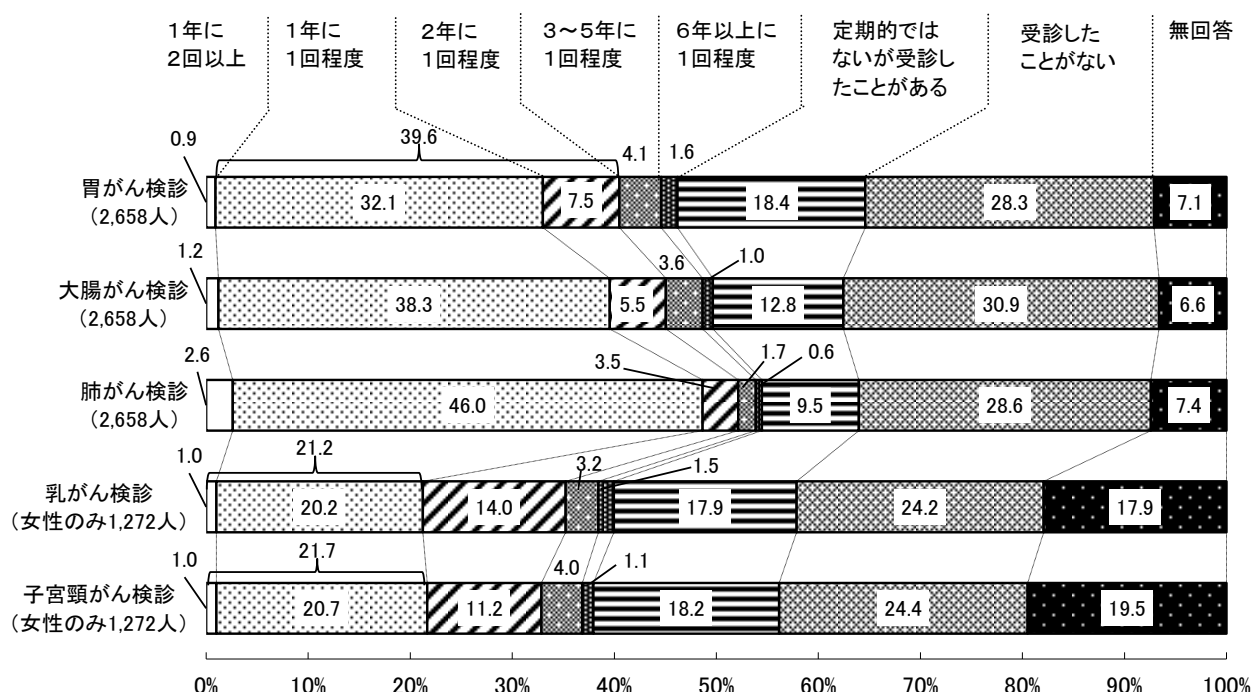
大腸がん検診、肺がん検診については、「1年に1回程度」の割合が、大腸がん検診38.3%、肺がん検診46.0%となっている。

乳がん検診、子宮頸がん検診(いずれも女性のみ1,272人)については、「2年に1回程度」の割合が、乳がん検診14.0%、子宮頸がん検診11.2%となっている。

また、「1年に2回以上」と「1年に1回程度」を合わせた、がん検診に関する国指針で定められた受診間隔よりも短い間隔で(過剰に)検診を受診している割合は、乳がん検診、子宮頸がん検診とも約2割となっている(21.2%、21.7%)。

一方で、「受診したことがない」の割合は、胃がん検診28.3%、大腸がん検診30.9%、肺がん検診28.6%、乳がん検診24.2%、子宮頸がん検診24.4%となっている。(図Ⅱ-5-1)【本文161p】

図Ⅱ-5-1 がん検診の受診状況



(注) がん検診については、健診等(健康診断、健康診査及び人間ドック)の中で受診したものも含む。

<参考>がん検診に関する国指針(「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」)

○胃がん検診(※)…【対象者】50歳以上、【受診間隔】2年に1回

○大腸がん検診、肺がん検診…【対象者】40歳以上、【受診間隔】年1回

○乳がん検診…【対象者】40歳以上の女性、【受診間隔】2年に1回

○子宮頸がん検診…【対象者】20歳以上の女性、【受診間隔】2年に1回

※1 胃がん検診は、当分の間、胃部エックス線検査を40歳以上の者に年1回実施しても差し支えない。

※2 子宮頸がん検診については、令和6年2月よりHPV検査単独法が追加されている。

(1) 胃がん検診の受診状況一性・年齢階級別

胃がん検診の受診状況を性・年齢階級別にみると、「1年に1回程度」と「2年に1回程度」を合わせた割合は、男性 43.7%、女性 35.1%となっている。

50 歳以上で「1年に1回程度」と「2年に1回程度」を合わせた割合は、男性 48.1%、女性 36.9%となっている。(表Ⅱ-5-1)【本文 162p】

表Ⅱ-5-1 胃がん検診の受診状況一性・年齢階級別

	総数	1 年に 2 回 以上	1 年に 1 回 程度	2 年に 1 回 程度	3 ～ 5 年に 1 回 程度	6 年 以上 に 1 回 程度	受 診 期 間 は あ り ま せ ん	受 診 し た こ と が あ り ま す	無 回 答
総数	100.0 (2,658)	0.9	32.1	7.5	4.1	1.6	18.4	28.3	7.1
男	100.0 (1,384)	1.1	37.4	6.4	3.7	1.7	16.1	27.5	6.1
			43.7						
20～29歳	100.0 (80)	1.3	5.0	—	—	—	1.3	87.5	5.0
30～39歳	100.0 (152)	—	22.4	3.3	2.0	0.7	7.2	61.8	2.6
40～49歳	100.0 (213)	1.4	45.1	6.6	4.7	1.9	14.1	23.9	2.3
50～59歳	100.0 (310)	1.3	51.9	7.4	2.9	2.9	13.9	17.7	1.9
60～69歳	100.0 (256)	1.2	48.8	6.6	3.9	2.0	19.1	14.5	3.9
70～79歳	100.0 (233)	1.3	29.2	6.9	7.7	1.7	21.9	21.0	10.3
80歳以上	100.0 (140)	0.7	20.7	9.3	0.7	0.7	27.1	17.9	22.9
女	100.0 (1,272)	0.8	26.3	8.8	4.6	1.5	20.9	29.0	8.0
			35.1						
20～29歳	100.0 (103)	—	2.9	—	—	—	3.9	87.4	5.8
30～39歳	100.0 (148)	—	18.9	1.4	2.7	—	13.5	54.7	8.8
40～49歳	100.0 (182)	1.6	47.3	9.9	3.8	1.1	15.4	19.8	1.1
50～59歳	100.0 (258)	0.4	40.7	12.4	3.9	2.7	17.1	18.6	4.3
60～69歳	100.0 (195)	1.5	28.7	12.8	7.2	2.1	22.6	19.5	5.6
70～79歳	100.0 (225)	1.3	16.9	9.8	8.0	2.2	32.0	17.3	12.4
80歳以上	100.0 (161)	—	11.8	8.1	3.7	0.6	33.5	23.0	19.3
(再掲) 総数 50歳以上	100.0 (1,778)	1.0	33.8	9.1	4.8	2.0	22.2	18.4	8.6
男 50歳以上	100.0 (939)	1.2	40.8	7.3	4.0	2.0	19.3	17.7	7.7
			48.1						
女 50歳以上	100.0 (839)	0.8	26.0	11.0	5.7	2.0	25.5	19.3	9.7
			36.9						

(2) 大腸がん検診の受診状況一性・年齢階級別

大腸がん検診の受診状況を性・年齢階級別にみると、「1年に1回程度」の割合は、男性 39.4%、女性 37.3%となっている。

40歳以上で「1年に1回程度」の割合は、男性 43.6%、女性 42.9%となっている。

(表Ⅱ-5-3)【本文 164p】

表Ⅱ-5-3 大腸がん検診の受診状況一性・年齢階級別

	総数	1年に2回以上	1年に1回程度	2年に1回程度	3～5年に1回程度	6年以上に1回程度	定期的ではないが受診したことがある	受診したことがない	無回答
総数	100.0 (2,658)	1.2	38.3	5.5	3.6	1.0	12.8	30.9	6.6
男	100.0 (1,384)	1.4	<u>39.4</u>	6.0	3.8	0.9	11.9	30.8	5.7
20～29歳	100.0 (80)	1.3	8.8	—	—	—	1.3	82.5	6.3
30～39歳	100.0 (152)	1.3	23.7	1.3	0.7	0.7	7.2	61.8	3.3
40～49歳	100.0 (213)	1.4	45.1	5.2	3.3	0.9	10.3	30.0	3.8
50～59歳	100.0 (310)	1.3	49.0	6.8	2.9	1.3	9.7	26.5	2.6
60～69歳	100.0 (256)	1.6	51.2	5.1	5.1	1.2	12.5	18.4	5.1
70～79歳	100.0 (233)	1.7	36.9	9.9	7.7	—	15.9	20.6	7.3
80歳以上	100.0 (140)	1.4	26.4	9.3	3.6	2.1	22.9	17.9	16.4
女	100.0 (1,272)	1.0	<u>37.3</u>	5.0	3.3	1.1	13.8	31.0	7.5
20～29歳	100.0 (103)	—	6.8	1.0	1.0	—	4.9	79.6	6.8
30～39歳	100.0 (148)	—	19.6	0.7	2.0	—	7.4	59.5	10.8
40～49歳	100.0 (182)	1.1	48.9	6.6	2.2	—	11.0	28.0	2.2
50～59歳	100.0 (258)	0.4	53.9	5.8	3.1	1.9	9.7	19.8	5.4
60～69歳	100.0 (195)	1.0	43.1	8.2	3.6	1.5	15.9	22.1	4.6
70～79歳	100.0 (225)	3.6	38.2	4.9	5.3	1.3	19.1	18.2	9.3
80歳以上	100.0 (161)	—	24.8	5.0	4.3	1.9	24.8	23.6	15.5
(再掲) 総数 40歳以上	100.0 (2,173)	1.4	43.3	6.6	4.1	1.2	14.4	22.5	6.5
男 40歳以上	100.0 (1,152)	1.5	<u>43.6</u>	7.0	4.5	1.0	13.3	23.1	6.0
女 40歳以上	100.0 (1,021)	1.3	<u>42.9</u>	6.1	3.7	1.4	15.6	21.9	7.1

(3) 肺がん検診の受診状況一性・年齢階級別

肺がん検診の受診状況を性・年齢階級別にみると、40 歳以上で「1 年に 1 回程度」の割合は、男性 53.8%、女性 48.2%となっている。(表Ⅱ-5-5)【本文 166p】

表Ⅱ-5-5 肺がん検診の受診状況一性・年齢階級別

	総 数	1 年 に 2 回 以 上	1 年 に 1 回 程 度	2 年 に 1 回 程 度	3 ～ 5 年 に 1 回 程 度	6 年 以 上 に 1 回 程 度	受 定 診 期 した 的 こと は ない が ある	受 診 した こと が ない	無 回 答
総数	100.0 (2,658)	2.6	46.0	3.5	1.7	0.6	9.5	28.6	7.4
男	100.0 (1,384)	2.9	49.3	3.4	1.4	0.7	9.0	27.1	6.2
20～29歳	100.0 (80)	—	15.0	3.8	2.5	—	—	72.5	6.3
30～39歳	100.0 (152)	0.7	32.9	2.0	0.7	—	4.6	55.9	3.3
40～49歳	100.0 (213)	0.9	56.3	3.8	0.9	—	8.9	25.4	3.8
50～59歳	100.0 (310)	2.3	57.4	4.2	1.3	1.3	7.7	22.9	2.9
60～69歳	100.0 (256)	4.7	59.8	2.0	2.0	1.6	10.2	15.6	4.3
70～79歳	100.0 (233)	4.7	48.1	3.0	2.1	0.4	11.6	19.7	10.3
80歳以上	100.0 (140)	5.0	40.7	5.7	0.7	0.7	15.0	15.0	17.1
女	100.0 (1,272)	2.3	42.6	3.7	2.0	0.6	10.1	30.1	8.6
20～29歳	100.0 (103)	—	12.6	—	—	—	2.9	77.7	6.8
30～39歳	100.0 (148)	0.7	25.0	1.4	2.0	—	4.7	56.8	9.5
40～49歳	100.0 (182)	2.7	57.1	4.9	0.5	1.1	4.9	25.3	3.3
50～59歳	100.0 (258)	1.6	55.8	5.0	2.7	1.2	8.9	19.0	5.8
60～69歳	100.0 (195)	2.1	47.7	6.2	3.6	—	11.8	23.1	5.6
70～79歳	100.0 (225)	4.4	43.1	3.1	2.2	0.9	15.6	19.6	11.1
80歳以上	100.0 (161)	3.1	33.5	2.5	1.9	—	18.0	21.7	19.3
(再掲) 総数 40歳以上	100.0 (2,173)	3.1	51.2	4.0	1.8	0.8	10.9	20.8	7.5
男 40歳以上	100.0 (1,152)	3.4	<u>53.8</u>	3.6	1.5	0.9	10.2	20.1	6.6
女 40歳以上	100.0 (1,021)	2.7	<u>48.2</u>	4.4	2.3	0.7	11.7	21.4	8.6

(4) 乳がん検診の受診状況一年齢階級別

女性の乳がん検診の受診状況を年齢階級別にみると、「2年に1回程度」の割合は、60代では24.1%となっている。

40歳以上では、「2年に1回程度」の割合が16.5%、「1年に1回程度」が20.9%、「1年に2回以上」が1.1%となっており、これらを合わせた割合は38.4%となっている。(表Ⅱ-5-7)

【本文 168p】

表Ⅱ-5-7 乳がん検診の受診状況一年齢階級別

	総数	1年に2回以上	1年に1回程度	2年に1回程度	3～5年に1回程度	6年以上に1回程度	受定期的ではないがある	受診したことがない	無回答
総数(女)	100.0 (1,272)	1.0	20.2	14.0	3.2	1.5	17.9	24.2	17.9
20～29歳	100.0 (103)	1.0	7.8	1.0	1.0	0.0	5.8	70.9	12.6
30～39歳	100.0 (148)	0.7	24.3	6.1	3.4	0.7	11.5	29.7	23.6
40～49歳	100.0 (182)	2.2	35.2	15.4	2.7	0.5	9.9	12.1	22.0
50～59歳	100.0 (258)	1.2	30.6	20.2	4.3	1.9	13.2	10.1	18.6
60～69歳	100.0 (195)	0.5	20.5	<u>24.1</u>	5.6	2.6	18.5	16.4	11.8
70～79歳	100.0 (225)	0.9	9.8	14.7	2.2	2.2	28.4	26.2	15.6
80歳以上	100.0 (161)	0.6	5.0	5.0	1.9	1.2	32.9	32.3	21.1
(再掲) 40歳以上	100.0 (1,021)	<u>1.1</u>	<u>20.9</u>	<u>16.5</u>	3.4	1.8	20.1	18.7	17.6
			<u>38.4</u>						

(5) 子宮頸がん検診の受診状況一年齢階級別

女性の子宮頸がん検診の受診状況は、「2年に1回程度」、「1年に1回程度」及び「1年に2回以上」の割合がそれぞれ、11.2%、20.7%、1.0%となっている。

年齢階級別にみると、60歳以下のすべての年代で、「1年に1回程度」の割合(16.5%～36.8%)が「2年に1回程度」(5.8%～16.4%)を上回っている。(表Ⅱ-5-9) 【本文 170p】

表Ⅱ-5-9 子宮頸がん検診の受診状況一年齢階級別

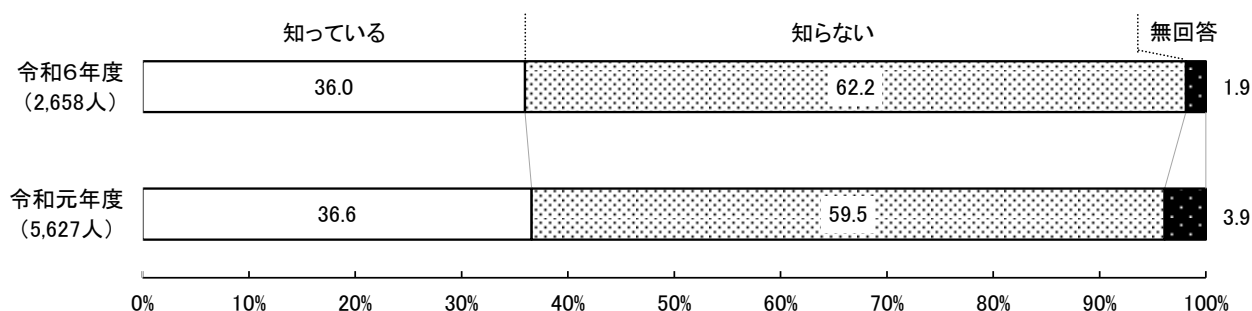
	総数	1年に2回以上	1年に1回程度	2年に1回程度	3～5年に1回程度	6年以上に1回程度	受定期的ではないがある	受診したことがない	無回答
総数(女)	100.0 (1,272)	<u>1.0</u>	<u>20.7</u>	<u>11.2</u>	4.0	1.1	18.2	24.4	19.5
20～29歳	100.0 (103)	1.9	<u>16.5</u>	<u>5.8</u>	2.9	0.0	12.6	50.5	9.7
30～39歳	100.0 (148)	0.7	<u>27.7</u>	<u>12.8</u>	3.4	0.7	12.2	20.9	21.6
40～49歳	100.0 (182)	1.6	<u>36.8</u>	<u>12.6</u>	2.2	1.1	11.0	12.1	22.5
50～59歳	100.0 (258)	1.6	<u>29.5</u>	<u>15.1</u>	6.6	1.9	15.5	10.9	19.0
60～69歳	100.0 (195)	0.0	<u>22.6</u>	<u>16.4</u>	5.6	1.0	20.0	21.0	13.3
70～79歳	100.0 (225)	0.9	7.6	9.8	3.6	1.3	23.6	32.4	20.9
80歳以上	100.0 (161)	0.6	0.6	0.6	1.9	0.6	29.8	39.1	26.7

第6章 肝炎ウイルス検査の状況

1 肝炎ウイルス検査の認知度

20歳以上の世帯員（2,658人）に、区市町村や保健所で、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスへの感染の有無を調べる肝炎ウイルス検査が行われていることを知っているか聞いたところ、「知っている」割合が36.0%、「知らない」が62.2%となっている。（図Ⅱ-6-1）【本文 173p】

図Ⅱ-6-1 肝炎ウイルス検査の認知度

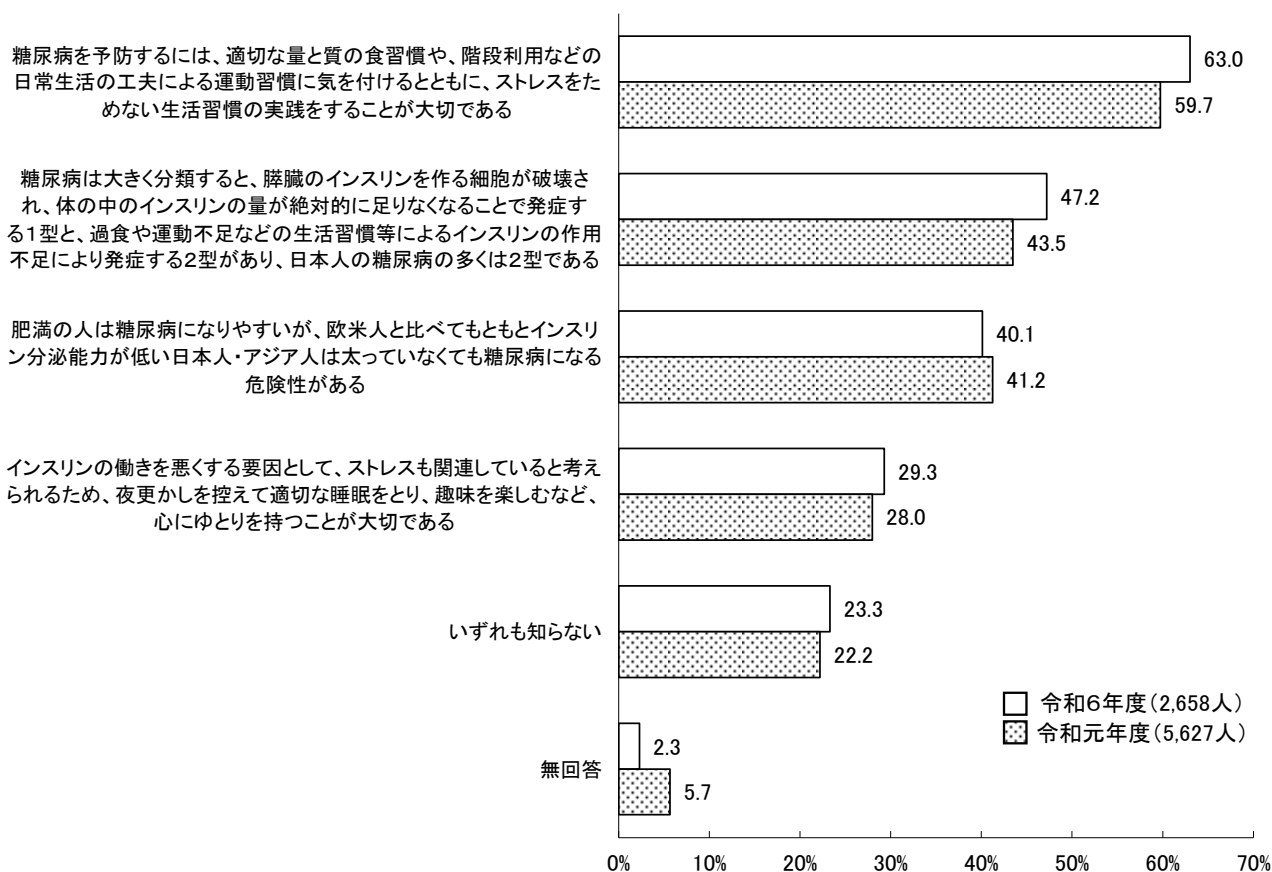


第7章 糖尿病

1 生活習慣の改善による発症予防について知っていること[複数回答]

20歳以上の世帯員（2,658人）に、生活習慣の改善による発症予防について、以下のようなことを知っているか聞いたところ、「糖尿病を予防するには、適切な量と質の食習慣や、階段利用などの日常生活の工夫による運動習慣に気を付けるとともに、ストレスをためない生活習慣の実践をすることが大切である」と回答した割合が63.0%と最も高くなっている。（図Ⅱ-7-1）【本文 177p】

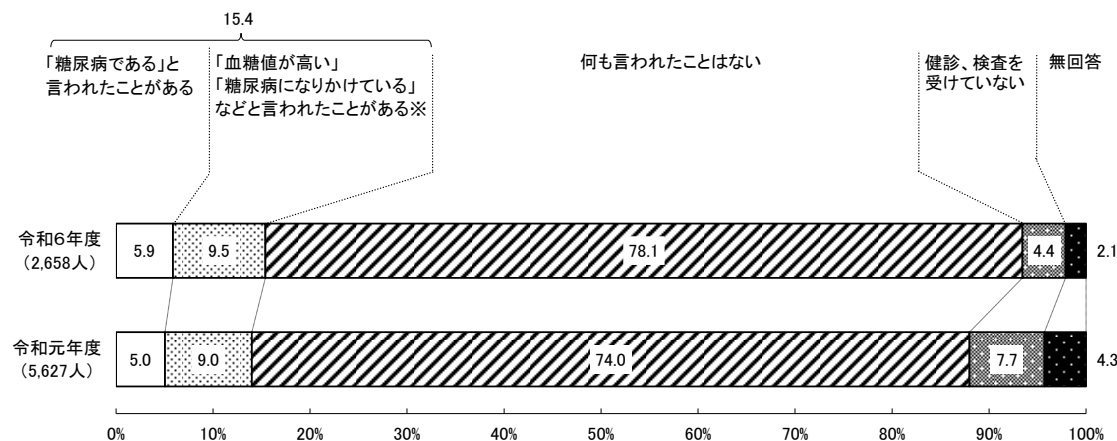
図Ⅱ-7-1 生活習慣の改善による発症予防について知っていること[複数回答]



2 糖尿病り患状況

20 歳以上の世帯員（2,658 人）に、健診等の結果、糖尿病と言われたことがあるか聞いたところ、「『糖尿病である』と言われたことがある」割合が 5.9%、「『血糖値が高い』『糖尿病になりかけている』などと言われたことがある」が 9.5%となっており、これらを合わせた割合は 15.4%となっている。一方で、「何も言われたことはない」の割合は 78.1%となっている。（図Ⅱ-7-2）【本文 179p】

図Ⅱ-7-2 糖尿病り患状況

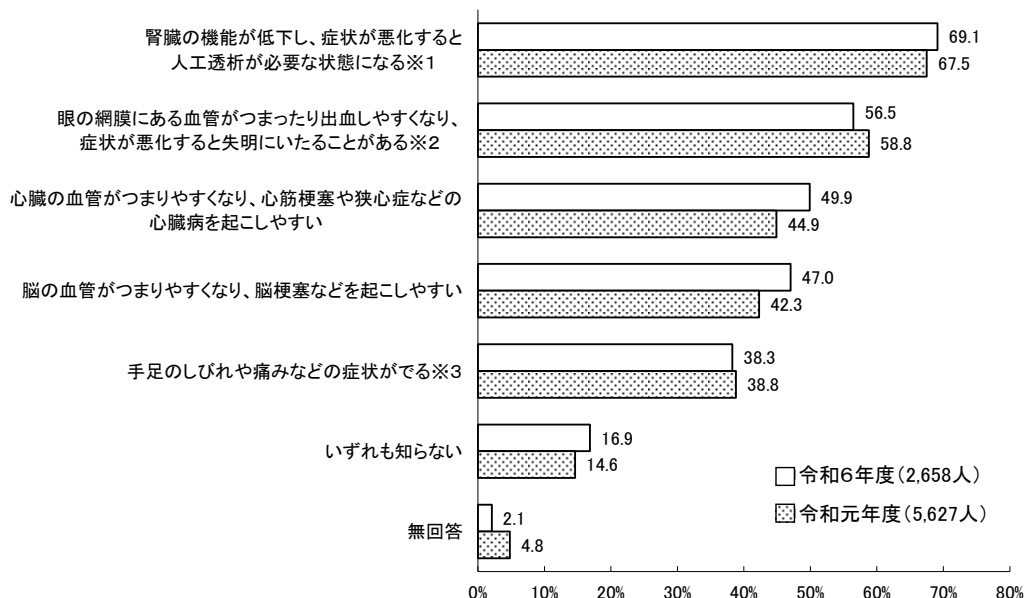


（注）※は、令和元年度調査では「『血糖値が高い』『糖尿病の境界型』『糖尿病の気がある』『糖尿病になりかけている』などと言われたことがある」としていた。

3 糖尿病の悪化で起こる状態の認知度〔複数回答〕

20 歳以上の世帯員（2,658 人）に、糖尿病が悪化することで、以下のような状態になることを知っているか聞いたところ、「腎臓の機能が低下し、症状が悪化すると人工透析が必要な状態になる」と回答した割合が 69.1%で最も高く、次いで「眼の網膜にある血管がつまったり出血しやすくなり、症状が悪化すると失明にいたることがある」が 56.5%となっている。（図Ⅱ-7-8）【本文 184p】

図Ⅱ-7-8 糖尿病の悪化で起こる状態の認知度〔複数回答〕



（注1）※1は、令和元年度調査では、「腎臓の機能が低下し、放置し症状が進むと人工透析が必要な状態になる」としていた。

（注2）※2は、令和元年度調査では、「眼の網膜にある血管がつまったり出血しやすくなり、放置し症状が進むと失明にいたることがある」としていた。

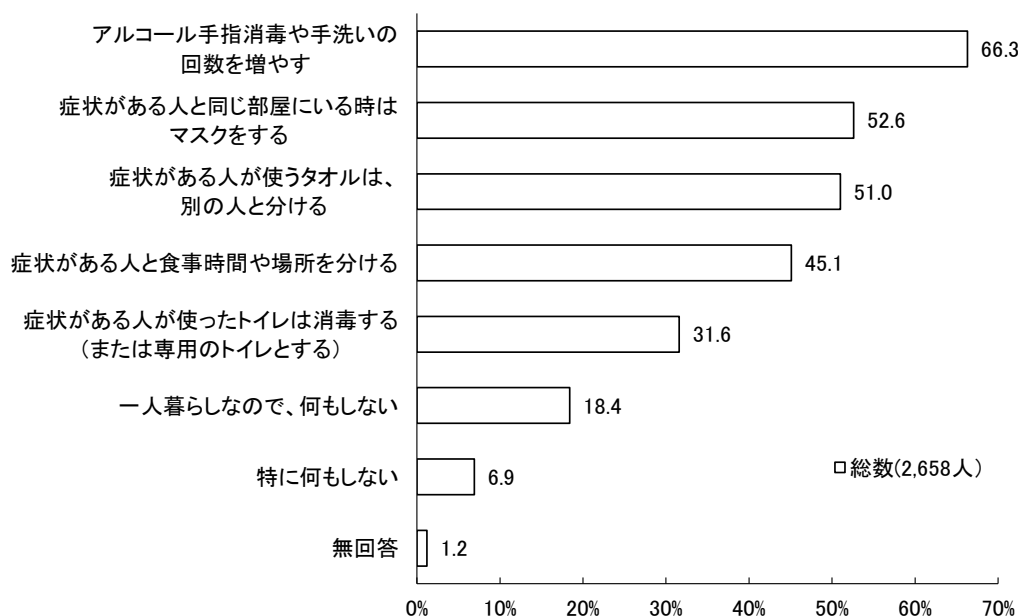
（注3）※3は、令和元年度調査では、「手足のしびれや痛み、感覚が鈍くなるなどの症状がでる」としていた。

第8章 感染症対策の状況

1 家庭内の感染症対策[複数回答]

20歳以上の世帯員（2,658人）に、家庭内に発熱や咳、下痢など感染症かもしれない症状がある方がいる場合の家庭内の感染症対策を聞いたところ、「アルコール手指消毒や手洗いの回数を増やす」の割合が66.3%で最も高く、次いで「症状がある人と同じ部屋にいる時はマスクをする」が52.6%となっている。（図Ⅱ-8-1）【本文 187p】

図Ⅱ-8-1 家庭内の感染症対策[複数回答]

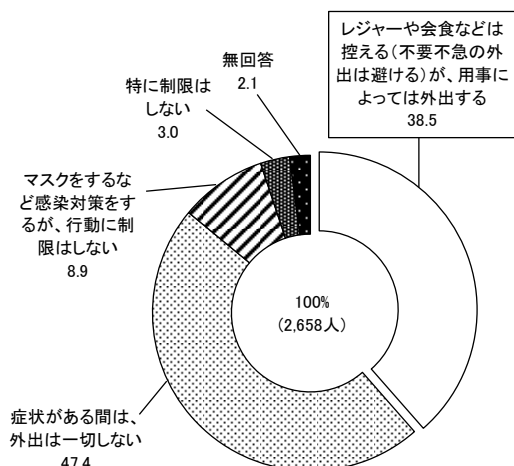


2 感染症の症状がある場合の外出と外出先[複数回答]

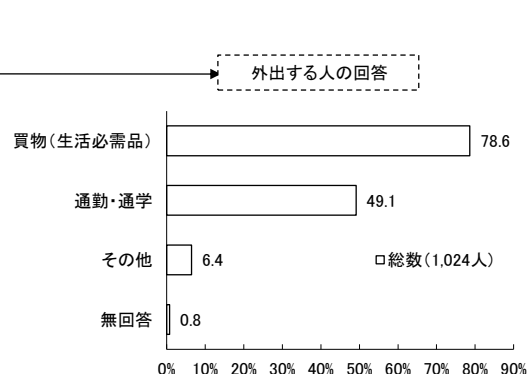
20歳以上の世帯員（2,658人）に、発熱や咳、下痢など感染症かもしれない症状がある場合、通勤・通学や買物、レジャーなどのために外出するか聞いたところ、「症状がある間は、外出は一切しない」の割合が47.4%で最も高く、次いで「レジャーや会食などは控える（不要不急の外出は避ける）が、用事によっては外出する」が38.5%となっている。（図Ⅱ-8-2）

「レジャーや会食などは控える（不要不急の外出は避ける）が、用事によっては外出する」人（1,024人）に外出する用事を聞いたところ、「買物（生活必需品）」の割合が78.6%、「通勤・通学」が49.1%となっている。（図Ⅱ-8-3）【本文 189p】

図Ⅱ-8-2 感染症の症状がある場合の外出



図Ⅱ-8-3 外出先[複数回答]

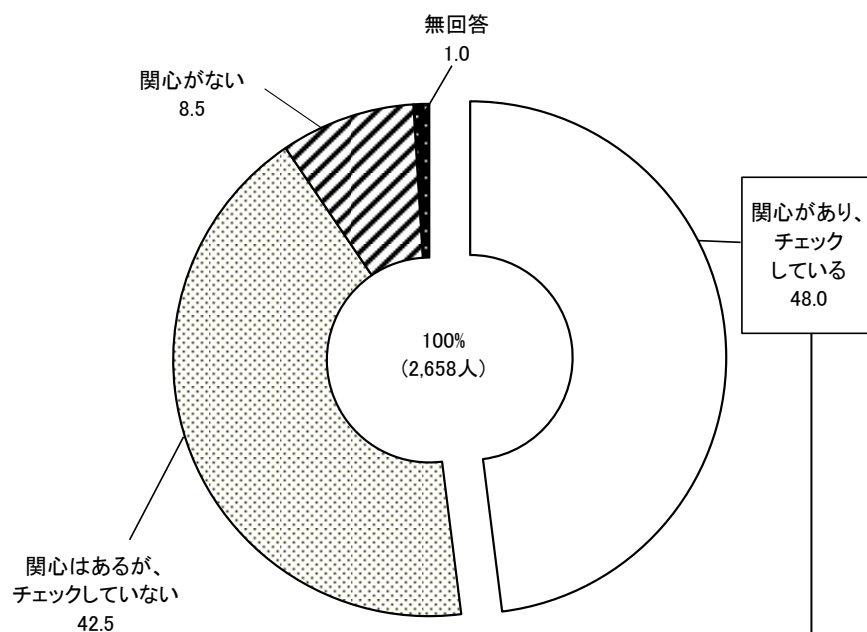


3 感染症情報への関心とチェックしている情報源〔複数回答〕

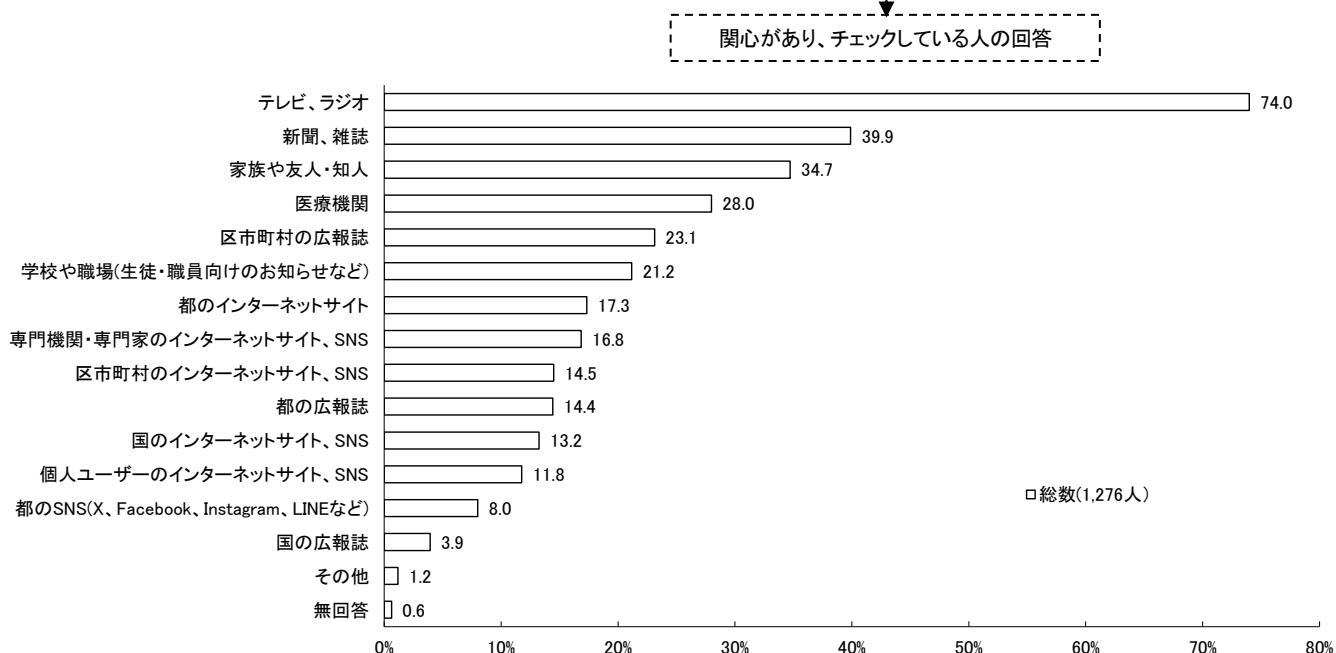
20歳以上の世帯員（2,658人）に、感染症（インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、感染性胃腸炎（ノロウイルスなど）など）の情報に関心があり、チェックしているか聞いたところ、「関心があり、チェックしている」の割合が48.0%で最も高く、次いで「関心はあるが、チェックしていない」が42.5%となっている。（図Ⅱ-8-4）

「関心があり、チェックしている」人（1,276人）にチェックしている情報源を聞いたところ、「テレビ、ラジオ」の割合が74.0%、「新聞、雑誌」が39.9%となっている。（図Ⅱ-8-5）【本文192p】

図Ⅱ-8-4 感染症情報への関心



図Ⅱ-8-5 チェックしている情報源〔複数回答〕



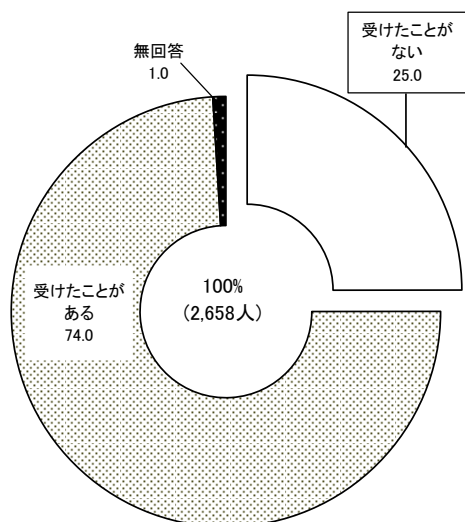
第9章 結核

1 胸のレントゲン検査の受診の有無と受診しなかった理由[複数回答]

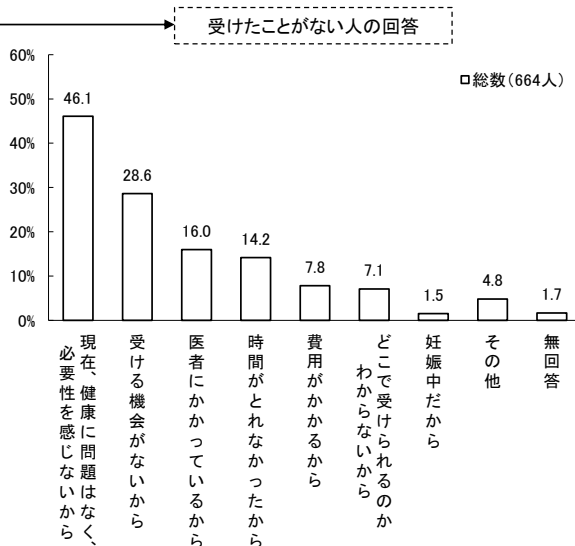
20歳以上の世帯員（2,658人）に、この1年以内に胸のレントゲン検査を受けたことがあるか聞いたところ、「受けたことがある」の割合が74.0%、「受けたことがない」が25.0%となっている。（図Ⅱ-9-1）

「受けたことがない」人（664人）に受診しなかった理由を聞いたところ、「現在、健康に問題はなく、必要性を感じないから」の割合が46.1%、「受ける機会がないから」が28.6%となっている。（図Ⅱ-9-2）【本文 P195】

図Ⅱ-9-1 胸のレントゲン検査の受診の有無



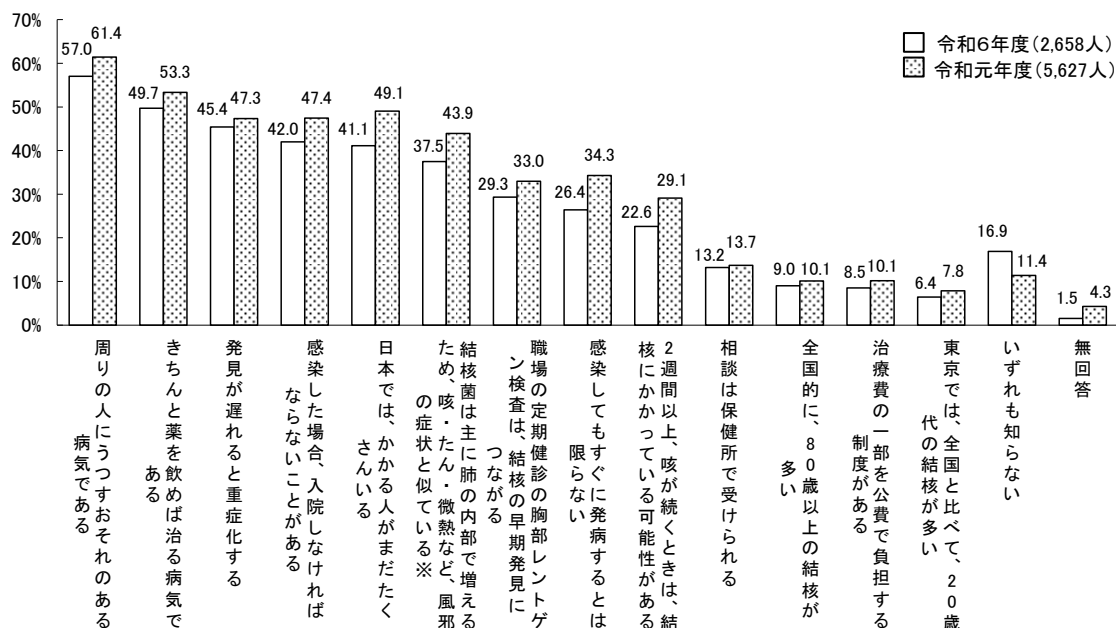
図Ⅱ-9-2 胸のレントゲン検査を受診しなかった理由[複数回答]



2 結核に関する知識の認知度[複数回答]

20歳以上の世帯員（2,658人）に、結核について、以下のようなことを知っているか聞いたところ、「周りの人にうつすおそれのある病気である」と回答した割合が57.0%と最も高く、次いで「きちんと薬を飲めば治る病気である」が49.7%、「発見が遅れると重症化する」が45.4%となっている。（図Ⅱ-9-4）【本文 199p】

図Ⅱ-9-4 結核に関する知識の認知度[複数回答]



（注）※は、令和元年度調査では「結核菌は主に肺の内部で増えるため、咳・たん・微熱など、風邪の症状と似ている」としていた。

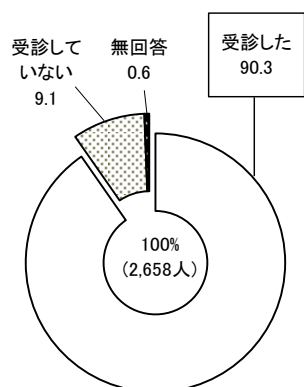
第10章 医療機関の受診状況

1 過去1年間の医療機関の受診の有無と受診した傷病名〔複数回答〕

20歳以上の世帯員（2,658人）に、この1年間に病院や診療所を受診したか聞いたところ、「受診した」割合が90.3%、「受診していない」が9.1%となっている。（図Ⅱ-10-1）

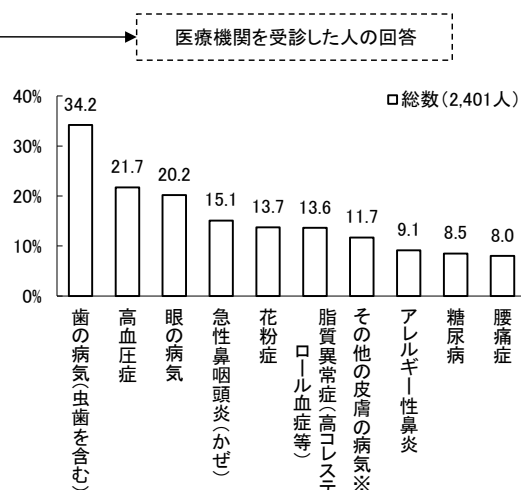
また、「受診した」と回答した人（2,401人）に、どのような傷病で受診したかを聞いたところ、「歯の病気（虫歯を含む）」の割合が34.2%、「高血圧症」が21.7%、「眼の病気」が20.2%、「急性鼻咽頭炎（かぜ）」が15.1%、「花粉症」が13.7%となっている。（図Ⅱ-10-2）【本文203p】

図Ⅱ-10-1 過去1年間の医療機関受診の有無



図Ⅱ-10-2 受診した傷病名〔複数回答〕

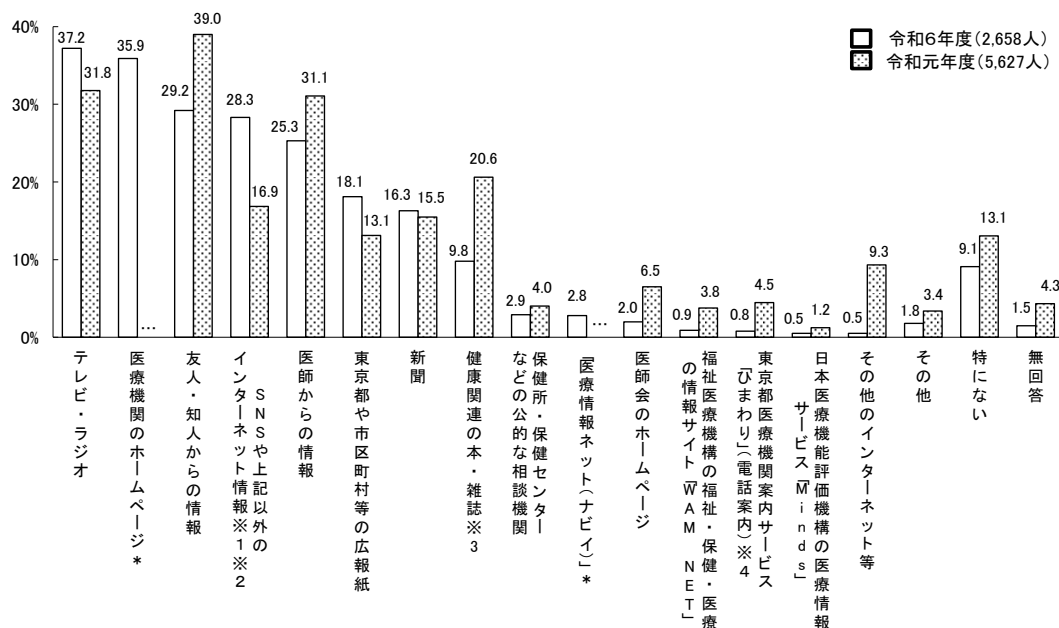
（上位10位まで）



2 医療情報の入手方法〔複数回答〕

20歳以上の世帯員（2,658人）に、医療情報をどのように入手しているか聞いたところ、「テレビ・ラジオ」の割合が37.2%、「医療機関のホームページ」が35.9%、「友人・知人からの情報」が29.2%となっている。（図Ⅱ-10-3）【本文212p】

図Ⅱ-10-3 医療情報の入手方法〔複数回答〕



（注1） *は、令和元年度調査では選択肢を設けていなかった。

（注2） ※1の「上記以外」とは「医療機関のホームページ」、「医療情報ネット（ナビイ）」、「医師会のホームページ」、「福祉医療機構の福祉・保健・医療の情報サイト「WAM NET」」、「日本医療機能評価機構の医療情報サービス「Minds」」を示している。

（注3） ※2は、令和元年度調査では「SNS（ツイッター、フェイスブック等）・ブログ・掲示板」としていた。

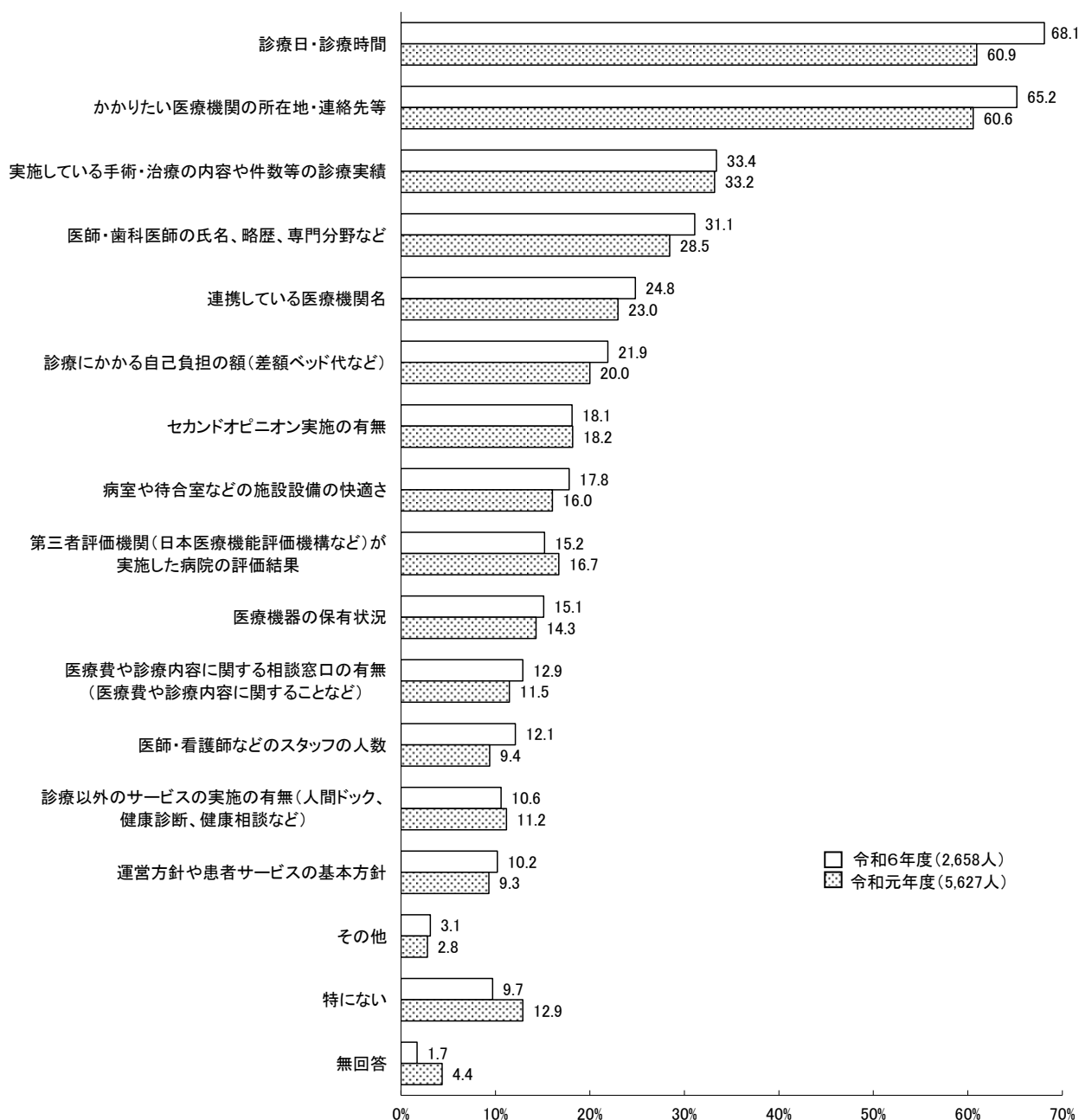
（注4） ※3は、令和元年度調査では「健康関連の本」と「雑誌の特集記事」に選択肢を分けていた。

（注5） ※4は、令和元年度調査では「東京都医療機関案内サービス「ひまわり」」としていた。

3 医療機関を選ぶために欲しい医療情報[複数回答]

20歳以上の世帯員（2,658人）に、病院や診療所などの医療機関を選ぶために欲しい情報はどのような情報が聞いたところ、「診療日・診療時間」の割合が68.1%、「かかりたい医療機関の所在地・連絡先等」が65.2%、「実施している手術・治療の内容や件数等の診療実績」が33.4%となっている。（図Ⅱ-10-4）【本文 215p】

図Ⅱ-10-4 医療機関を選ぶために欲しい医療情報[複数回答]



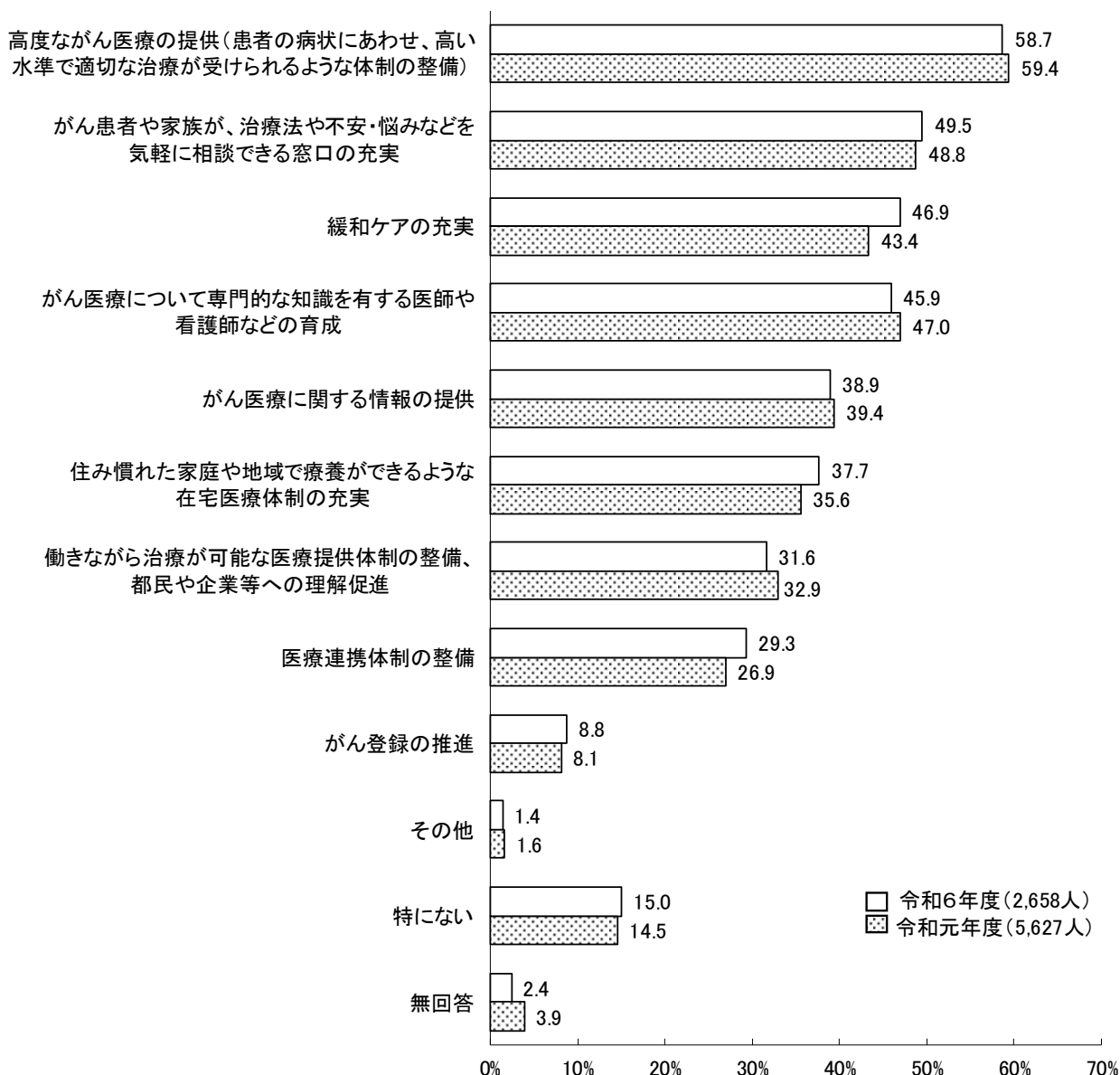
第11章 がん医療・在宅療養・リハビリテーション医療・在宅医療

1 がん医療対策に望むこと〔複数回答〕

20歳以上の世帯員（2,658人）に、がん医療対策について、どういったことに力を入れてほしいと思うか聞いたところ、「高度ながん医療の提供（患者の病状にあわせ、高い水準で適切な治療が受けられるような体制の整備）」の割合が58.7%と最も高く、「がん患者や家族が、治療法や不安・悩みなどを気軽に相談できる窓口の充実」が49.5%、「緩和ケアの充実」が46.9%となっている。

（図Ⅱ-11-1）【本文217p】

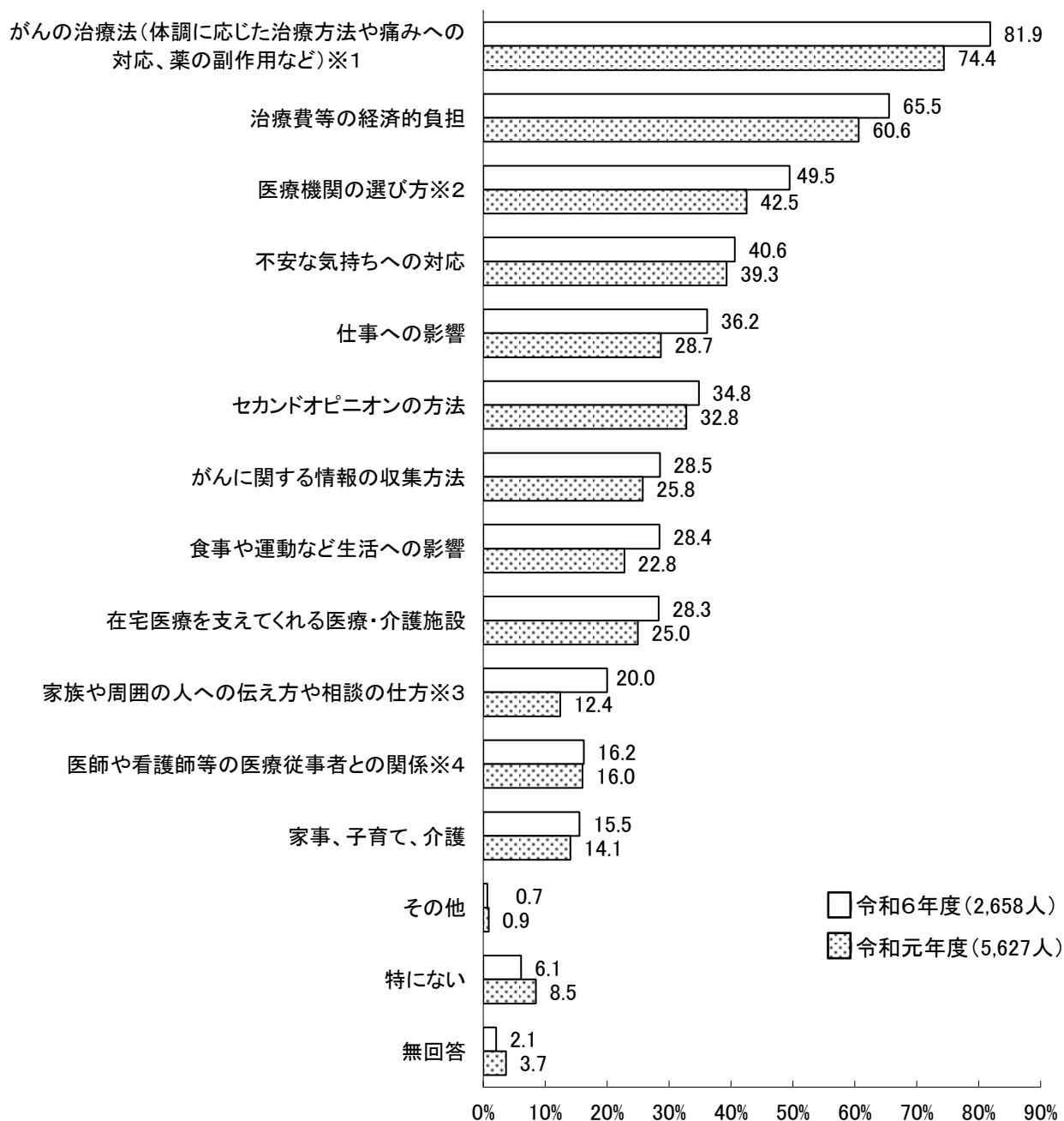
図Ⅱ-11-1 がん医療対策に望むこと〔複数回答〕



2 がんに関する相談内容[複数回答]

20歳以上の世帯員（2,658人）に、もしも、がんと診断された場合、専門の相談窓口へ相談したいと思うものを聞いたところ、「がんの治療法（体調に応じた治療方法や痛みへの対応、薬の副作用など）」の割合が81.9%と最も高く、次いで「治療費等の経済的負担」が65.5%、「医療機関の選び方」が49.5%となっている。（図Ⅱ-11-2）【本文 219p】

図Ⅱ-11-2 がんに関する相談内容[複数回答]



(注1) ※1は、令和元年度調査では「がんの治療法」としていた。

(注2) ※2は、令和元年度調査では「専門的な医療を受けられる医療機関」としていた。

(注3) ※3は、令和元年度調査では「周囲の人への伝え方や相談の仕方」としていた。

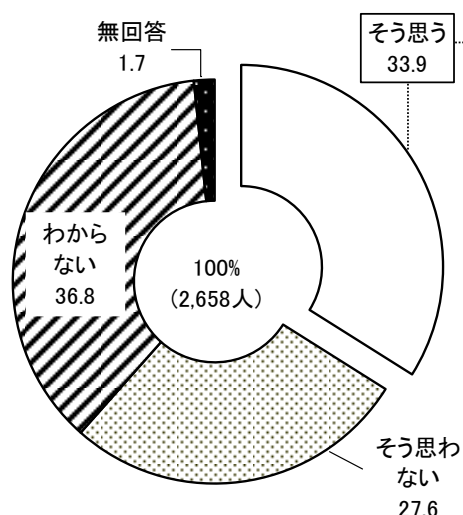
(注4) ※4は、令和元年度調査では「医師や看護師等の医療者との関係」としていた。

3 在宅療養の理想とその実現可能性

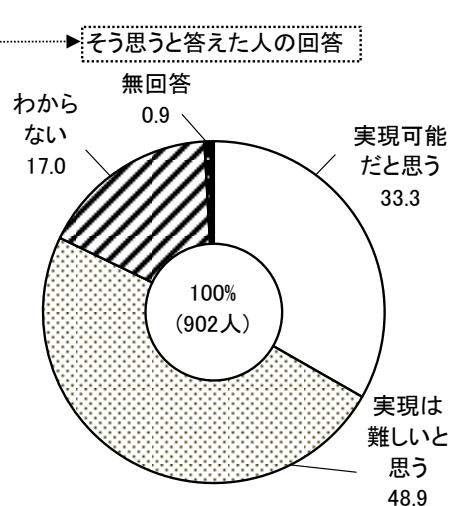
20歳以上の世帯員（2,658人）に、脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合、理想として自宅で療養を続けたいと思うか聞いたところ、「そう思う」の割合が33.9%、「そう思わない」が27.6%、「わからない」が36.8%となっている。（図Ⅱ-11-3）

また、「そう思う」と回答した人（902人）に、実現可能だと思うか聞いたところ、「実現可能だと思う」の割合が33.3%、「実現は難しいと思う」が48.9%、「わからない」が17.0%となっている。（図Ⅱ-11-4）【本文 221p】

図Ⅱ-11-3 在宅療養の理想



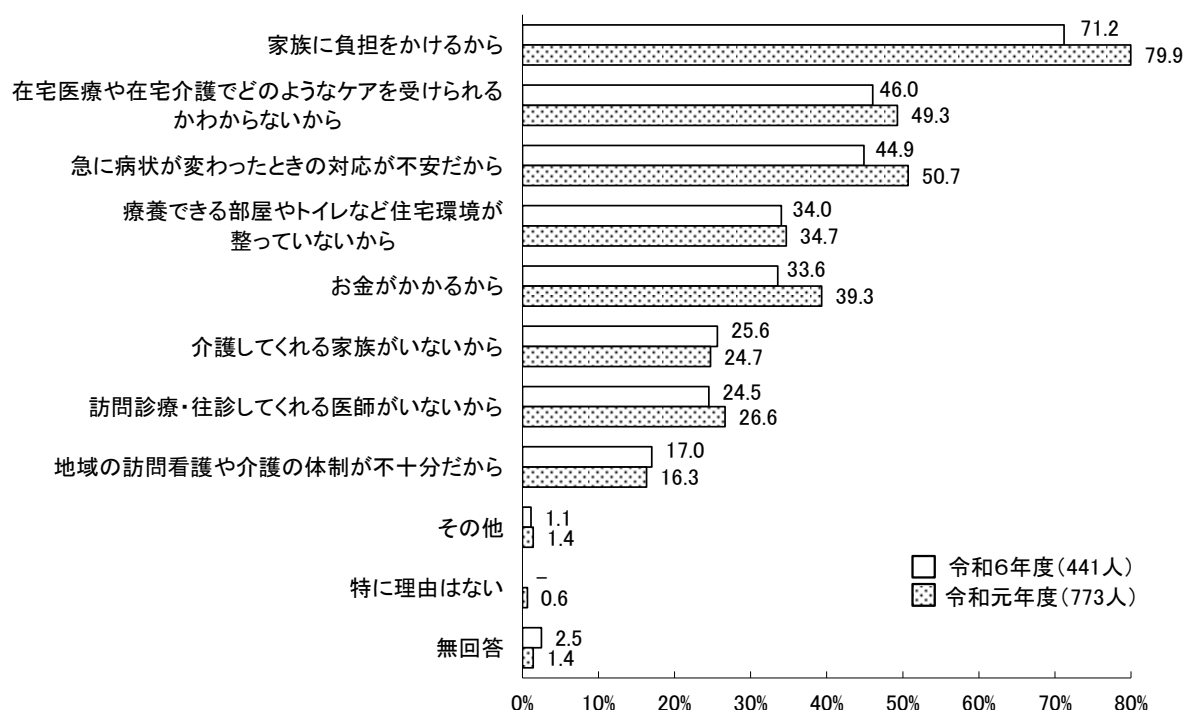
図Ⅱ-11-4 在宅療養の実現可能性



4 在宅療養の実現が難しいと思う理由[複数回答]

在宅療養の実現は難しいと思う人（441人）に、その理由を聞いたところ、「家族に負担をかけるから」の割合が71.2%と最も高く、次いで「在宅医療や在宅介護でどのようなケアを受けられるかわからないから」が46.0%、「急に病状が変わったときの対応が不安だから」が44.9%となっている。（図Ⅱ-11-7）【本文 224p】

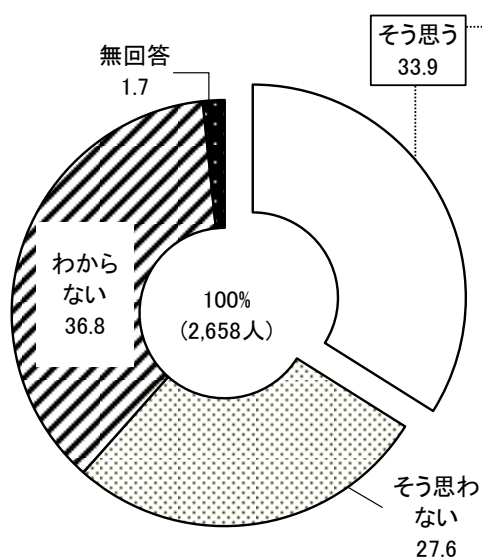
図Ⅱ-11-7 在宅療養の実現が難しいと思う理由[複数回答]



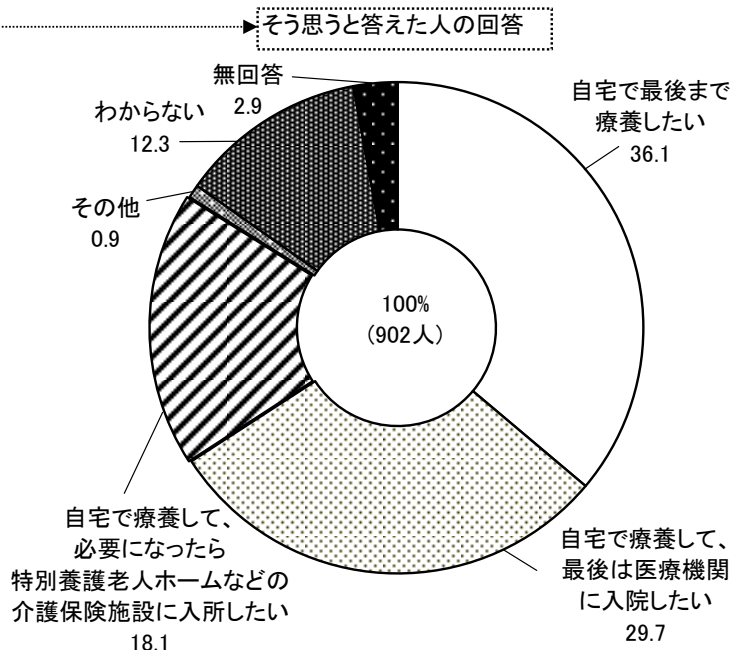
5 最期の過ごし方の希望

脳卒中の後遺症や末期がんなどで長期の療養が必要になった場合、理想として自宅で療養を続けたいと思う人（902人）に、自分の最期をどのように過ごしたいか聞いたところ、「自宅で最後まで療養したい」の割合が36.1%、「自宅で療養して、最後は医療機関に入院したい」が29.7%、「自宅で療養して、必要になったら特別養護老人ホームなどの介護保険施設に入所したい」が18.1%となっている。（図Ⅱ-11-8）【本文 226p】

図Ⅱ-11-3 在宅療養の理想



図Ⅱ-11-8 最期の過ごし方の希望

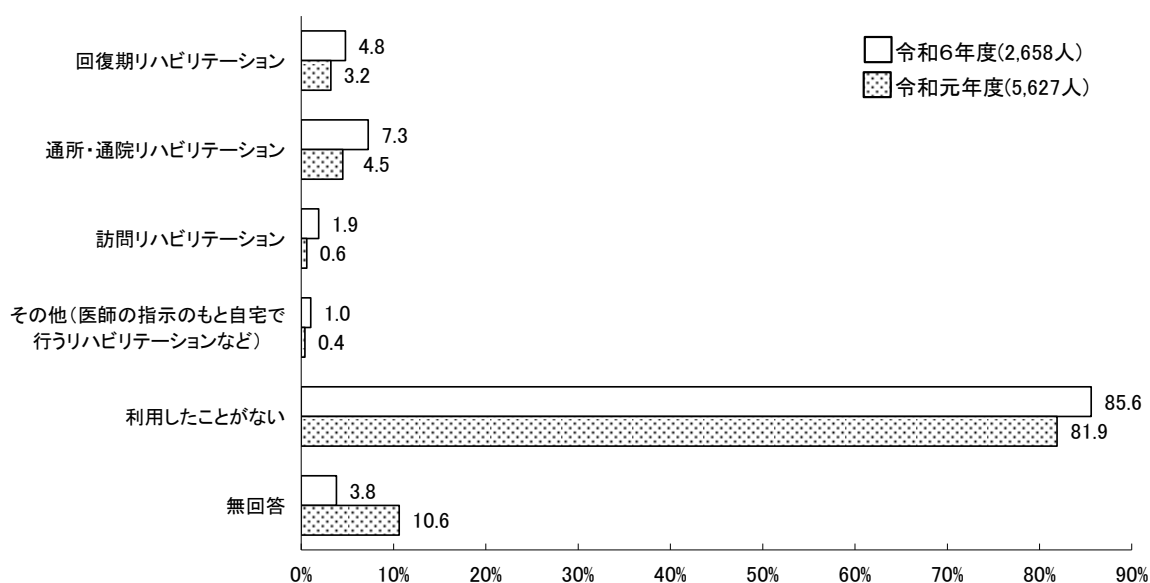


6 リハビリテーション又は在宅医療の利用状況〔複数回答〕

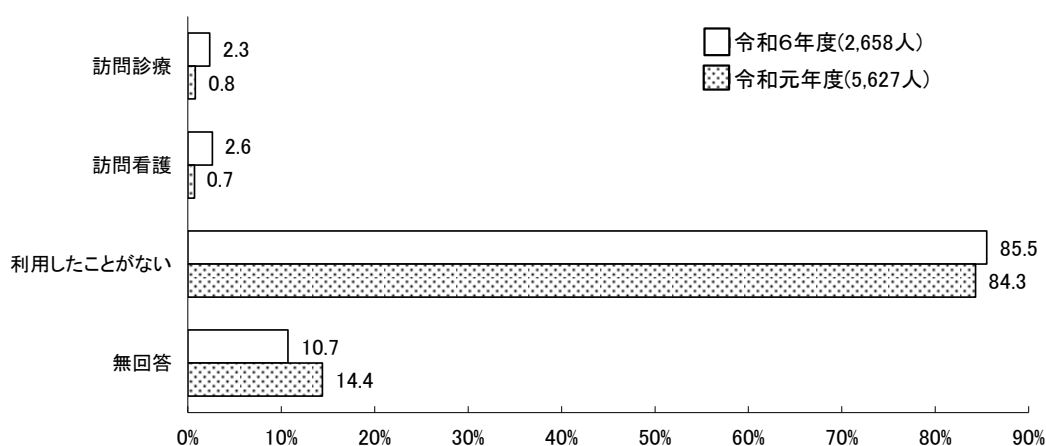
20歳以上の世帯員（2,658人）に、リハビリテーションまたは在宅医療を利用したことがあるか聞いたところ、リハビリテーションについては、「通所・通院リハビリテーション」を利用した割合が7.3%、「回復期リハビリテーション」が4.8%となっている。一方、「利用したことがない」は、85.6%となっている。（図Ⅱ-11-9）

また、在宅医療については、「訪問看護」を利用した割合が2.6%、「訪問診療」が2.3%となっている。一方「利用したことがない」は、85.5%となっている。（図Ⅱ-11-10）【本文 228p】

図Ⅱ-11-9 リハビリテーションの利用状況〔複数回答〕



図Ⅱ-11-10 在宅医療の利用状況〔複数回答〕

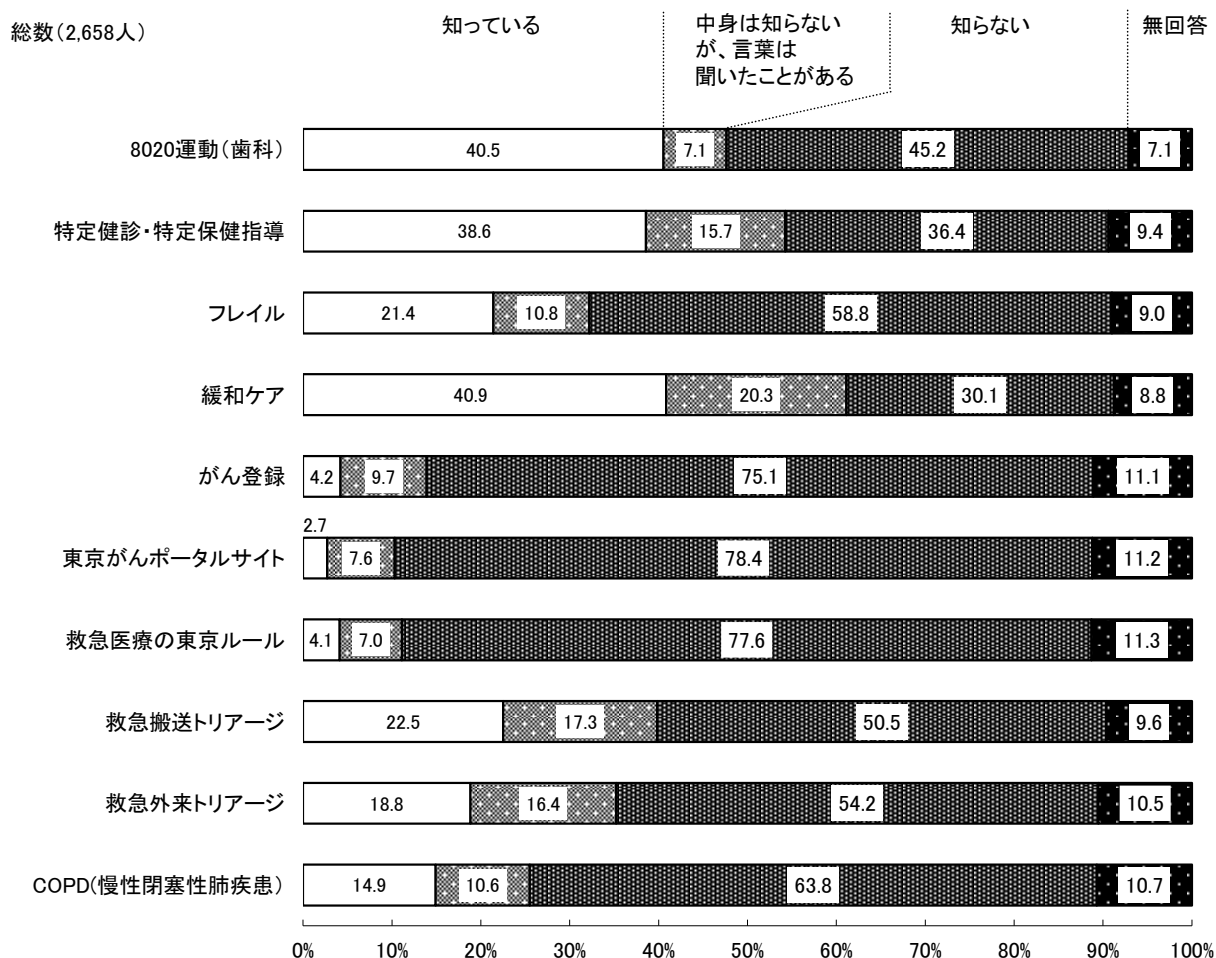


第12章 保健医療関連施策等の認知度

1 保健医療関連施策等の認知度、利用経験

20歳以上の世帯員（2,658人）に、この調査に回答する以前に、以下の項目を知っていたかどうか聞いたところ、「知っている」割合は、「緩和ケア」が40.9%で最も高く、次いで「8020運動（歯科）」が40.5%、「特定健診・特定保健指導」が38.6%となっている。（図Ⅱ-12-1）【本文233p】

図Ⅱ-12-1 保健医療関連施策等の認知度



また、以下の項目について認知度に加え、利用経験の有無を聞いたところ、「知っている」の割合は「救急相談センター（＃7119）」が 38.4%、「保険適用による禁煙治療」が 25.7%となっており、「利用経験あり」の割合は、「救急相談センター（＃7119）」が 13.6%で最も高く、次いで「東京都医療機関案内サービス『ひまわり』（電話案内）」が 3.2%、「子供の健康相談室（小児救急相談）（＃8000）」が 3.0%となっている。（図Ⅱ-12-2）【本文 234p】

図Ⅱ-12-2 保健医療関連施策等の認知度、利用経験

